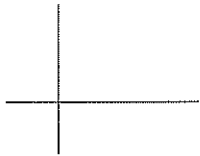




第3章 回復者の歩みの歴史



10

11

12

13

14

15

16

17

18

『入所者・退所者及び元医療従事者からの

聞き取り』をお読みになる前に

平成8年に「らい予防法」が廃止されてから、ちょうど10年が経過しました。法律に基づき行われた強制隔離によって助長された社会の偏見や差別意識は、この間なくなつていったのでしょうか。その辺りのハンセン病を取り巻く状況を入所者・退所者の方からお聞きしました。特に、「らい予防法」が廃止される前後の気持ちの変化、国賠訴訟でご苦労された事など語っていただきました。

また、そんな厳しい状況の中においても前向きに取り組んでこられた趣味や現在の生活などを中心とした聞き取りを行い、ハンセン病回復者の「今」を伝えます。

そして、今回新たに医療従事者として、以前長島愛生園で働かれていた看護師と看護助手の方の当時の園の様子についての証言を加えることができました。

1 聞き取りの実施方法及び表記等

平成18年11月から平成19年1月にかけて、療養所を訪問し、入所者、元医療従事者の方と直接面談して、聞き取りの内容をテープに録音しました。また退所し社会復帰された方には集まっていたとき、座談会という形で自由に語っていただき、テープに録音しました。

「入所者・退所者及び元医療従事者からの聞き取り」では、実際に協力していただいた方の生の声が反映されるよう、録音したテープの内容をできるだけそのまま文章化するよう心がけました。

なお、今回聞き取りに協力していただいた方の氏名・年齢につきましては、ご本人の申し出により記載しております。また、地名・地域など個人の特定に繋がる内容は、プライバシーに十分留意して掲載しました。

病名の表記については、らい予防法の廃止後は「ハンセン病」に統一することとなっておりますが、ご協力いただいた方の心情が伝わるように、できる限り発言内容はそのままにし、「らい（癩）」という言葉を使用したところがあります。

また、ハンセン病の病状や障害などについても、現時点では適切でないとと思われる表現がありますが、聞き取りに協力していただいた方が、当時の偏見・差別意識を描写するため過去の発言などを用いたと考えられますので、あえてそのままの表現を用いた箇所もあります。

2 用語解説

「入所者・退所者及び元医療従事者の聞き取り」の中で使ってきた用語（文中の用語の右肩に※を付記）については、基本的にそのページ左下に「用語解説」を記載しました。

自治会の闘い——陳情へ行つた日々——

長島愛生園 下川 亘さん（81歳／男）

昭和18年7月5日、18歳で長島愛生園に入園しました。在園63年になります。

当時神戸の三菱の、今もあるんですが、造船所、そこで働いてたんですが、神戸の県立病院に診察へ行つて、それで大阪の阪大の皮膚科に行けいふことになって。その阪大に行つて、診察を受ける前に阪大の本館の皮膚科かどつかで、よけ学生がやつて来とつてね、研究材料みたいなものでいろいろ話しをして。それから皮膚科の別館に行つたんですわ。そこに桜井いう先生が来られて診察されてたんです。それでしたらね、一週間に一回ぐらい神戸から通つたんですわ。それで病氣のことが、神戸の警察の方に連絡があつたんですよ。何日に愛生園に行くからいふことで、私の方に連絡があつたんです。その時は分かりましたいふことで。まあ僕はあまり騒がなかつたから。家を出た時、消毒もやつたんじゃないかな、後の事は僕は分からないからね。だから僕の場合は、まあ強制的いうんじゃないだろうから、そやけども、半強制的みたいなもんじゃない。よく言われる神戸の職員からは連絡はなかつたですね。会つたこともないです。それで、18年7月5日に、昔の国鉄に神戸の三宮駅から乗つて、この日に決めて、次から次へと僕ら病人のおるところの駅で、姫路とか加

古川とか順に乗せて、岡山駅に着いた時には13名でしたわ。ちょうど田植えの時期で、もう田の草を取つとつたんでねえ。それで、岡上に着いたんが、何時頃やつたんかなあ、時間ははっきりせんけど、7月やからまだ明るかつた。おそらく5時か6時頃着いたんでしよう。もう着いたとたんかね、普通の改札口じゃないんですわ。貨物とか荷物を出し入れするところ、そのところを通つてね、愛生園の自動車が迎えに来とつて、それに皆乗車したんですわ。その自動車がまた、後ろに観音扉があつて、そこから入るんですわ。その車に乗せられて、愛生園のある虫明までやつて来たんです。そしたら虫明の村に入つたらね、ちいぢい道路やから、子どもがこの自動車を見て、たかつとるんですわ。竹かなんかで、ほんばん、ほんばん。そういうような時代で、嫌われたのは嫌われたけどねえ。それで船に乘せられてやつて来たのが、ちょうど日の暮れで。愛生園に着いて上がつて、回春寮いう昔の医局、今はもう全然使つてないんですが、そこで早速、皆持つてきた荷物を全部開けて、そして消毒風呂に入らされて、その寮に一週間ほど泊められたんです。観察の寮やね、あの回春寮いうんわ。それで、お金も皆取り上げられて、取り上げられたいうのも、一応預かるよ言うて、そういうことで愛

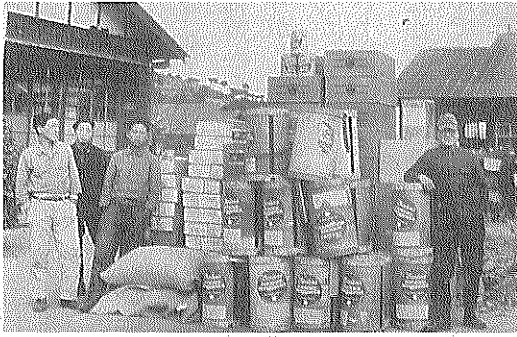
生園の園内通貨、紙の紙幣を一回に五円ぐらいやろねえ、渡されたんわ。その時に事務とつとる人事務官から分館に呼び出されて、お金を貰って、これを使えいうことになってね、後は皆、それ以上の金を持っている人は、園内通帳に入れられたんですわ。利子は全然付かないけどまあ預かりますいう。そこまでが神戸から愛生園の、入園の時までの経過ですわ。だからどっちかというやっぱり、半強制みたいなもんやねえ。入らへんかったら、治療ができへん、入った方が早く治るいう。そやけど入っても、大風子油いう注射があつて、それだけやったから、治療といつても、ほとんどもうあつてないようなもんですがな。戦時中だから、もう働け働けいうて、働かされて。それで私は青年団に入らされて、園内で、特に伐採とか、それから農業、農作、そういうところへ皆やつとつたんです。皆若かったから働きに出て、奉仕にも出てやつたんですが、やっぱりその間に皆手や足や目が悪くなつて、不自由になつてきたと、そういう時代ですわ。食事なんかは、お粥さんとか馬鈴薯。井に馬鈴薯が六つ七つぐらい入つて、サツマイモをそのくらい。その時分はもう塩もなかつたしね、醬油もなかつたからね、だから自分たちで、友達同士で海岸行つて、塩炊きをやつたんです。塩を作つて、それをお粥さんに掛けるとか、馬鈴薯皮を剥いだのに掛けて食べるとか。まあさつまいもは、塩はあまりいらんけどやつぱりちよつと付けてね、そういう食事です。ご飯なんか、ほとんど食わな

かつたですわ。

私はね、青年舎いうところに入つたんですわ。今のこの上にあつたんです。2階建てで、12畳半の部屋に6人。一間の押入が2つ付いてね。そうしたら6人もおつたら、もう荷物や布団がいっぱいで。まあ真ん中の人は、真ん中だけしか使えんから、「こつちから開けえ」、もう一人の人は「こつちから開けえ」と、そういうような部屋だったです。それで蚤や虱がようけおるんですわ、何処へ行つても蚤がおつたんじゃないかと思うんですがね。そういう汚いところにまあ生活した時代ですわ。だから考えたたらあの時分が一番、愛生園の悪い時やね。それから終戦までずっともう働き通しで、皆、頑張つてきたわけなんですよ。

終戦後、昭和20年だから二十歳の時やね。入園者がその時分、1800か900人おつた。その中でもうこの生活に耐えられない人間は皆、逃走したんですわ。それで捕まったら、監房に3日・4日入れられたんです。この監房は開園当時の園長が造つた監房やからね、だから監房に入つたら一日に、握り飯が二つぐらいしか与えられない、たくわんが一切れつだけで。そういう厳しい、状態だったです。三日で出してくれる人もおるし、一週間おる人もおるしね。園に懲戒検束規定があつて、それで処罰されたんですわ。その時黙つて出て行つて帰つて来たたら、今度は監房に放り込まれるとそういうような時代でした。それから、アメリカから「らら物資」

いうて来たんですわ。衣類とか、砂糖とか、他のそういうものを、アメリカから貰って、それを生活の食事に当てて、また衣類なんかも貰って生活したようなわけなんです。それで、だんだん昭和23年か4年頃になって、ちよつと楽になったんか。そういうような事で、もうちよつとしてから、餅つきなんかやりようたねえ、年末の。臼もあつたし、杵もあつたし、蒸すやつも全部あつたんでね。丸いべたつとした餅、お正月の餅が、配給されたんです。ですから、そういう風にして、やがて、26年27年頃になってから大分よくなつてきました。この頃はみんな結婚しようたからね、若いから。私も昭和26年、26歳の時に結婚しました。



昭和23年12月25日
ララ物資配給 旧自治会
ミルク、砂糖、石鹼、毛布、衣類等

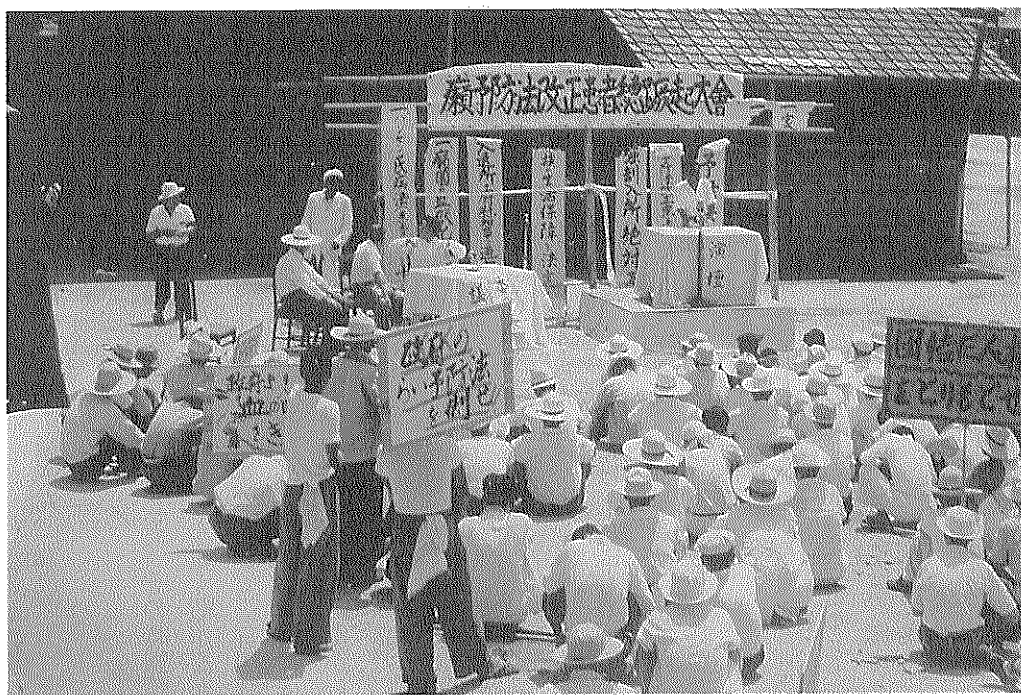
この頃でもまだ看護婦さんがようけおらんからね。だから、元気な女の人は、看護婦さんの手伝いに治療棟で包帯巻くとか、患者の世話をするという、そういう風な事を皆やつとつたんです。私ら男は福祉室におつてね、「あつこ行けえ、ここへ行け」言うて、伝票出すんですわ。事務ばつかりやつとつた。勤務は7日に一回、泊まりになれば7日やつたら、次の順番が来るまで、休むということだったですわ。

その時分はテレビも何もないしね、碁や将棋の大会があるというような。それと野球するもんもあつた。隣りの光明園とね、やりようたです。あとカルタ取りとかもあつたし。それぐらいのことやつたと思いますね、楽しみは。

昔、園でハンガーストやつた人がおつてね。昭和28年にらい予防法の改正があつて、それが気にくわん言うてね、全患協、全国の組織の中でね、国会に陳情したんですわ。国会陳情、本館前に座り込みですよ。それをやると園から、「止めてくれ」言うて、盛んに来られて。高島園長も、二代目の園長ですがね、それがもうハンガーストやつたところに来て、話も聞いて、そして「とにかくこんなことじゃあ身体が悪うなるから止めてくれ」言うて止めさせたんです。私も陳情にはよう行つてますよ。結婚した頃から治療は全然したことなし。もうずつと評議員から、自治会執行委員で陳情にも何回も行つてる。青森からどつこも行つてる。行つてないのは沖繩だけ。他全部行つてますよ。昭和46年か、その時分は厚生省に

行って、厚生省で座り込みやるしね。自治会はそれまでずっと出とったからね。だから自治会をやって苦労したことは苦労したね。そりゃ予防法で、園とけんかばかりやった。そういう活動の積み重ねで、予防法が廃止されたんですがね。あれはもう最近やからね、10年ほど前。予防法がなくなって、自由になったということもあるんですが、やっぱそれはもう、皆何十年いうて療養所生活やつとるから、社会との交流ですか、なかなかできなかつたね。親や兄弟とも、自由に家に戻るとか、帰って来れるいう人はおらなかつたですね。やっぱり迷惑がかかるから。どちらかというと、帰れる人はほんのわずかな人しかおらんという状態だったと思うんです。それで、予防法が廃止されたといつても、そういう事で私たちはもう長い間おりますから、あまりありがたいとは思わなかつたんですが、あのう補償金というんですか、迷惑かけたということで、小泉さんの総理の初めの時に皆貰ったんですわ。入園者全部が対象だったね。

時代の流れ考えたら、今はもう里帰りもさせて貰えるし、元気であれば、皆言うことはないと思いますけどね。



昭和28年 「らい予防法改正」要求 座り込み

結核とハンセン病と

邑久光明園 K・Mさん (78歳/男)

昭和49年に邑久光明園に入所。在園年数は33年かそんなもんです。趣味は写真と旅行。旅行といっても、タイに石鹸やタオル、古着とかを集めて持っていく活動をします。東南アジアの田舎では柄杓で水を汲んで流す水洗便所。それで石鹸というのは衛生のために持って、毎回行って向こうに届けるわけ。活動のことは、光明園にも来てるけど、例えば「社会法人好善社」とか、それから聞いて。光明園は光明園で集めてね。私なんか、60歳過ぎたら、毎年、町とか市からお祝いとしてくれるもんいうたら、ほらタオル。それがいっぱい貯まる。それからよそでもタオル貰うでしょ。それを、うんと貯めとったんや。そんなんでカバンいっぱいになった。だからそのカバンいっぱい持って行くわけ。

俺は満州で生まれ育ったの。日本の敗戦当時の夜のこと、住んでいた家の近くの銀行で元日本軍人のテロがあった。その事件を起こした元日本軍人が町中へ逃げたから、KGB(日本で言う警察)に町内が全部捕まった。わしや、逃げるところがない。戦後占領されて夜間は外出禁止だったから。男も女も全部捕まって、女ごどもは別にされ、男たちは取り調べのためKGBの本部のところへ連れて行かれて、鉄格子(ろうや)に入れられた。それでトイレに行くのにみんな並んで行って、

両手上げて、足広げて壁にべたつとやつとる。その時裸足やつた。寝てるどこをやられたから靴いもうも履く暇がなかったんや。俺の場合は、取り調べの順番がくるまで三日間豚箱入つとった。それで足が凍傷になつたわけ。凍傷はね、ハンセンと同じ、末梢神経いかれる。血が通わんから。だから登山家なんかで山で凍傷に罹つたら、壊死してくるからだいたい切つて落とすんや酷いんわね。でも日本で診て貰った時、先生(医者)は、なんぼ説明しても分からんよ。日本生まれの日本で育つた先生でしょ。捕まつたのが10月やつたけど、満州の寒さつていつたら分からんわけ。向こうやつたら、日中は別に凍りも何もしないんだわ。だけど夜はものすごい冷えるんよ。寒さを理解できないから、凍傷をハンセンと誤解した。いくら言うたつて、一旦決められたらもうお終い。昔の医者いうたら質が悪いもん。

初めに診て貰った阪大のS先生は分かってくれた。何で言うたら、その先生は、満州の「吉林」の側の学校卒業してる。だから満州のこと詳しいわけ。だから「君の足は、俺んところ来い。足切つたらええねん。社会で生活できるから」言うてくれたんや。その時結核やつとたから、胸の方が治つたら来るように言われた。結核が、今までハンセンと同じ扱い、隔

離だったでしよ。だから結核の療養所に入れられた。その療養所では、薬でどんどん治るようになって、最終的には、排菌しとつても、半年に一回とか、一年に一回排菌するいうもんも全部退所させたわけ。ものすごいひどかったよ、薬で抑えてるだけなんやから。止めてたら、しばらくしてまた出るんよ。昔だったら、薬を止めて半年とか一年、外の小屋で生活させて、病院の草むしりとか、畑仕事とか、そういうことして、医者がいい言うたら退所できたわけ。ところが、国の方針が変わって、薬で3ヶ月菌が出なかつたら、もう退所させるいうことになつてしもうた。俺は治つたいうより治つてないねんけど、3ヶ月菌が出なかつたら退所させられたんや。それで阪大に行った。S先生が言うてたから。それなのに今度は天理病院に放り込まれた、足の病気でね。阪大に行かせてくれ言うのに、結核の療養所が奈良やつたから奈良の病院に行かされたわけ。足切断するのに、全部素っ裸にして、頭の中から手足の先まで、レントゲン80何枚か撮つて。それから病院に居つて「においがけ」行つて来るわけよ。天理教の布教をしに行く、それを「においがけ」いうの。それで、「あんたここへ入れてもうて、いいと思わんか」言うわけ。「あほな、何でいいと言わんといかんの」って、俺があんまり反発した。そしたら天理病院から前の療養所へまた戻された、結核のね。なら、「何で帰つて来たんだ」言われるわけや。それで今度は、今まで阪大から来てるのに、京大の先生呼ぶ

のよ。何でやねん。阪大のS先生は、これもハンセンの偉いさんや、「あんたの場合やつたら、足切つたらもう外で生活できるよ」って言うてくれたのに。見てくれ、何にも熱こぶだつて出てない。ハンセンの後遺症みたいなもん出てない、足だけでしょうが。足を除いたら、全然ハンセンじゃないっていうんや。それなのに京大は、熱こぶが出るといふ。俺、南京虫に弱かつたから南京虫に食われた痕がある。それを掻きむしると疵になるわけ。それを見て「熱こぶがあつた」言うてきかんのよ。もうハンセンやて。いいも悪いもあらへん。反対しても何しようが、関係あらへんのや。県か市か知らんけど、奈良の保健所職員が来て、「あんた、らい病やから、空いたら行くように」言うて、聞かへんもん。なんほ、「あの阪大の先生がこう言うた」言うても、「だめや」って。京大の先生が言うから、俺は阪大の先生を盾にとつたけど、だめやつた。もう仕方ない。医者が一旦決めたら止まらんよ。權威あるもんばっかりだもん。阪大も教授、あの京大も教授や。なら、向こうの名譽に関わるわけや、問題が。こういうハンセンの診断があつたら有無を言わず入所、昔はそうやつた。社会情勢がそうやし。医者がこう判断したら、もう保健所が来たら絶対。とにかく断つても何回もほんまねちっこいつていうか、もう行かさんといかんようにもつていくもんね。

ハンセンの療養所に行くのに、やっぱり分からんように、向こうがしてくれたわけよ。収容の車が来た。それが死体を

持つて帰る寝台車みたいな、片っぱい寝台で一人横に座れるようになつとるわけ。これはもうあかん思つたから、全部自分のやつを段ボール10箱ほどに詰めて持つて来たんよ。ある程度はほつたけど貯まつとつた。テーバー（結核）長かつたからね。そうして光明園に、放り込まれたわけね。

邑久光明園に入所したら、結核やから隔離棟に入ったわけ。療養所の中に、そういう結核の隔離のとこがあつた。昔はらいは薬病（やくびょう）と言われとつたけど、結核も薬病、そう言われとつた。だから私は2つの理由で大分やられた。きついことも言われたよ。結核というのはレントゲン写しに行くのに、治療棟を通らんといかんわけ。そこにレントゲン写すところがあるから。病室から治療棟行く時に、「マスクかけて行け」言うわけよ、結核やから。したら、みんな言うわけや、「あいつらしい病のくせにらい嫌うとる」って、誤解してね。だからダブルの隔離ということやな。

前の病院でも結核棟というのがあつた。そこにいる時、だんだん薬が出て、今でも使うとる、リファンピシンいうて。もう慢性的で、どの薬も効かんというようなもの、リファンピシンがそういうのに効くつてんで、ドイツから入つてきたわけ。一回目6人試した。その6人全部副作用で肝臓が荒れて、ダメやつた。で、2回目も6人やつて俺だけ残つた。それですつと毎日飲まされとつた。だからプロミンは全然飲まない。結核の薬だけ。リファンピシン、結核の薬3点セット

や。もう何十年つて長いこと飲んでるんよ。おれがハンセンやつたらとつくに治つとる。リファンピシンはハンセンにも効くから。結核の薬とよう似とんの。プロミンとかB6とか、そんなん私の時にやもう使つてなかつた。それもハンセン病の人は、普通リファンピシン、だいたい一週間に2錠ぐらいなんよ。わたしは結核やからね、毎日3錠ずつ飲んでた。

それでも当時は治らない。それで隔離所にすつと入れられとつた。その頃、大部屋から個室へどんどん変えとる最中やつたけど、まだ個室が足りなかつたから、結核棟から出してもらえんわけよ。それと、この園には、結核の専門医つてのはいない。それで岡山の早島（はやしま）の先生が診察へ来た。早島いうたら結核の療養所でしょ。私結核だから早島の先生呼ぶわけ。それで結核のもんだだけ、その先生が一番最初に指示出すの。その時に私のレントゲン写真見て、「あんたは、寝たつきりの重病人や。動いたらいかん」言うて診断した。ただ洗濯もんも干しにも出たらいかんて、病室から。結局隔離でしょ。園の中の隔離がほとんど少なくなつたから一般病棟の一部を区切つて、そこから向こうは行かんように隔離だつたわけ。それが7年ぐらい続いた。まだ結核は治つてなかつたけど、人が亡くなつて部屋が空いたから入れてくれた。それで今のところへ入つたわけ。

ハンセン病と間違われたことで、らい予防法が廃止になつたからいうて、入つた以上はそんなん言うたつて話しになら

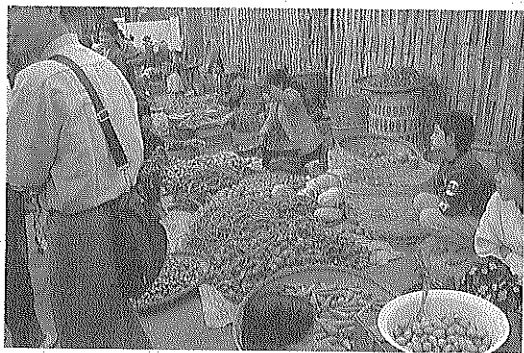
ん。特別な感情ってないよ、隔離っていうのは一緒だもん。テーベ一の隔離体験してるもん。結核やったら、今差別なんてないけど。すぐそばに「沼島」いう島があるやろ。小さな鳴門の島。もう漁師ばかりで。担当官が来て言うには、保健所の結核の担当がその島の結核の人の家庭へ行く。そして来ないでくれっていうわけ。「保健所から来たら、周りの人に分かるから村八分になる」言うて。結核もそういう状況やった、昔からね。だから結核と「らい」と両方でしょう。二重の苦しみがあったけど、あつたのは前からで結核で鍛えられとうもん。結核も外へ出してくれん、隔離よ。周り鉄条門で囲まれつつたのよ。でも結核の療養所の時は、月に二回だけは外出だつて許されとつた。日帰りだけと外出ができた。ただし三回無断外出したらもう放逐、脱柵いうて。人によっては三日いうのもいてたね、遠い人とか。

国賠訴訟で原告になつたけど、その時はもう周囲に言われたからなつただけ。私、創価学会やから、上の方から「みんなと一緒に原告になれ」言うて来たんで、ならなる言うて。たぶんそうだったと思うよ。本当はみんなと合わせるというのは、私はどっちかというたら、そんな嫌な方。なんでか言うたらな、前の病院でストライキをやつたわけ。今やつたら師長やけど昔は婦長いうたんよ。その看護婦長が嫌やからみんなボイコットするいうて。俺は止めとけ言うたんよ。「一旦上で、官庁で決まったことは、言うたつて動かん」って。だ

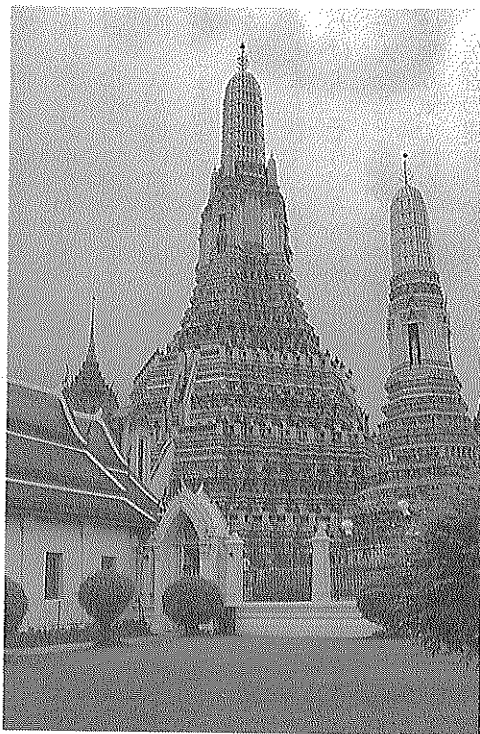
って私営業やってあちこち廻ってる。だから、知ってる、ダメやて。そしたら病院の中の自治会の役員に、この辺で言うと寮長やけど、その役員になつとつた学校の先生がストライキしよう言うて。「あの人（婦長）評判悪いから、ボイコットしよう」いうて、それでストをしたんよ。婦長が替わるいうて、二進も三進もいかんのよ。それで最終的に俺んとこへもつてきた。俺は止めとけ言うたのに、俺に「けりつけてくれ。なんとかしてくれ」言うて自治会の方から泣き付きに来たから。それで俺は行つて交渉した。学校の先生の後を受けて、もう追い詰めた。当時の総婦長いうたらな、ものすごい権利があつたんやから、今と違つて。その総婦長が「何とかします。何とか考えます」言うたから、その言葉尻を捕まえて、俺が突つ込んだわけよ、逃げれんようにね。「あんた考えます言うたやろ」言うてどんどこやつとたんよ。そしたら、もう向こうが逃げ道なくなつたわけ。その時、うちの自治会長が、「まあまあそこで止めとこう」ってこんなん言うんよ、俺を引つ張り出しておいて。もうそう言われたらしゃあない。そしたら後で「あれで、点数稼ごう思うた」って謝りに来るわけよ。そういう学校の先生やねん。結局俺が悪者にされた。そんなことがあつて、原告になる、みんなと合わせるいうのは乗り気ではなかつた。

医者の建前っていうのはもう知ってる。あの早島の先生に

しても、京大の先生にしても、権威ある先生が一旦、絶対安靜の病人やらい病や言うたらもうダメ。その先生がいうたらいつまでも残るの。だから恩給の問題でもそうや。ほんただったら、俺も恩給貰えるんだよ。学校から学動員で軍事工場行ってるもの。でも恩給は、証明者がないことには出ささん。証明者どころか、学校の住所がない。万が一、戦争になった場合私らの学校が本部になる。だから満州の学校の住所は削られとるわけ。分からんから「ない」って言われた。それから私が一番最後に行ったのが飛行機製造株式会社。日本では中嶋製作所やから、俺のを聞いた人が製作所の名前しか頭がないわけよ。向こうと名称が違うから。それで行っているのに、勤めてないことになってしまった。俺の言うてるのみんなうそや言うわけ。もう頭から受け付けようとしな。それから東南アジア造兵局、日本で「ぞうへいきよく」言うたらお金造るとこ、向こうで「ぞうへいきよく」言うたら武器を造るとこ。造幣の「幣」が違う。なんぼ言うたってダメ。証明のないかぎりはダメやいうことやねん。悔しい話しゃやけどね。だから悪いけど、担当官がちゃんと聞いてくれるかどうか、その人の考え二つ口一つで、ものすごい違うんだから、行政に立つ人は、よう考えて、公平に的確な判断をしなかつたら、人の人生を狂わすことになるんだよ。



K・Mさんがタイで撮影された写真
K・Mさんの写真は、表紙写真・第3章「回復者の活動一覽」にも掲載しています。



「俺達は遠慮なしに行けるんだ」

邑久光明園 芳山 智雄さん（91歳／男）

昭和9年6月に大阪の外島保養院に入所。その年の9月風水害（室戸台風）に合い、一ヶ月の間に後片付けして、そして助かった入所者を全国へ5カ所の療養所に預けて、あの委託治療やな。それで最後まで残った者が、草津栗生楽生園、あそこへ行つたわけや。それで、ここ邑久光明園が再建されたんが昭和13年の6月やろ。わしら帰つて来たんがその年の10月や。それから14年にわし、ここ光明園を出たんや。退所、軽快退院やな。40年間、ちようど家におつてね、日雇いして働いておつたけど、足が立たんようになって昭和53年に再入所したんや。

わしこつちの目下がつてるやろ。ここ斑紋が出て、麻痺して下がったわけやな。大風子時代や。その時代にはもう大風子しかない時代。で、唇はな注射打つたらその反応で唇血みどろになつてもうて、それで、治るのに3年かかったわな。プロミンは終戦後や。初めてプロミンいうもんができて、一ヶ月でぐるつと変わった人もあんねん。変わったいうんは悪うなつてしまうたんや。プロミンでもう病気がさわんねん。つまり病気は反応せんことには、薬は効かんやろ。それでその反応によって、医者がその薬の加減せんらんねん。ところが、それ打つたら治るいうさかいに、死に神がついたよう

にやな、みんな行つたらしいわ、打つてくれいうて。わしその当時、外にいて面会に来ようたからな、入所者のみんなが恐いぞと。プロミンは恐い恐い言うて、事後後遺症の残った人はこれはこうや、ああやつて実物見せてくれる。「わし一ヶ月でこうなつた」、「わしも目は見えんようになるわ、頭は薄うなつてまうわ」な、「手はがたがたになつてまうわ」、「せやからよつぽど気を付けてやれよ言うて。今度はプロミンやない、プロミンが入つてんねんけど、DDSいうやつやな。D DSを服用せいということで結局、もう昭和52年の暮れに来たら、はじめにそれ飲むか言うて、それで貰うて帰つては、家で飲んだわけや。ほんなら反応が来たわ。ぶうくと手が赤うなつてくるねん。「ああ、反応や」言うて薬を控えなんたらあかんのや。ほんなら今度は足が立たんようになって、「わしもう入る」全然。それで、うち家内びつくりしてもうて、「わしもう入る」言うて、ここ光明園へ。昭和53年に手続きして、すんなり入つて、それで今日まで28年や。その間、おぼはん（妻）は、月に一回ずつと来てくれよるんやけどな。

外で働いとる当時は、県の職員が訪ねに来たいうことはなかった。それやられたらわし、仕事できへんもん。それから今度息子に、おぼはんの連れ子や、それに嫁貰たやろ。これ

恥ずかしいと、隠しとかなならんということ、17年間ハンセン病のこと隠しとつたんや。17年目に、こんなん(邑久光明園)入ったから、否が応でも明かさなしようがなくなつてしもうたんや。なら、えらいとこに嫁に来たと、離婚問題や。わしの血筋にしとんやつたら、それもある程度言い分があるやろけど、家内の子であつて、父親が別やちゆうねん。全然血縁関係がないねやと。それでおまえら恋愛で一緒になつたんやろと、ええときだけ好きやどないや言うて、親に出して貰うて、わしの家に任んでおつてから何を言うんやと言つた。それで向こうが裁判するのを止めたわけや。今だつたら感染症であつて遺伝しないとわかるけど、その時分は、まだ言うとう時代やから。まだ予防法廃止になつて10年やからな。

その予防法の廃止前と廃止後の気持ちの違いは、患者自身の気持ちかね、「予防法が廃止になつたんだから、おれたちは遠慮なしに行けるんだ」という気持ちがあんなに行き渡つた。そやからな外行かいでも、外行ける人はいても遠慮なしに行けるようになったわけや。それまでは患者の身分を隠し、それが明かさかになつたら放り出されたらかなわん、監房入れられたらかなわん。そんな患者患者のプライドいうもんがあるわな、患者同士の。やはりそないなもん引つかつたら嫌やという、それで患者自治会をこしらえて、患者自身が自縄自縛にしようたわけや。

その後、国賠訴訟はな、長い間この隔離と偏見に苦しんだ

と、その補償をどないぞ認めてくれということやいやい言うた結果やな、署名運動したり色々して、それで国会議員に働きかけたわけや。国賠の原告には療養所全部や。全国一斉や。全国的に訴えて、あの医療労組いうやつやな、あれに訴えてから、国会に一生懸命申請して貰つたんや。そんな、わしんとこの園だけじゃ通らへん。国が受け付けへん、一つでは。この病気の証明のある人は全部や。

今、これ自治会長をしとるけど、会長言うたら一銭も貰われへんねや。何にもあたらへん。それで、ごじゃごじゃ言うてつたら、なあ。でもまあ元氣やから、できることだけ有難い思うとんねん。それに感謝せないかんのや。死ぬときだけ、こそつと死ねたらと思つとんやけどな。いや、ほんまやで、それだけ願うとんねん。

おかげでな、ここにおるさかいこんなやで。そりや外におつたら、その日の米の心配はつきりしとらなあかん。ほんまにその日のお米を買つてこなんたら、飯がくえんちや、今の人は、そんなこと味おうとれへんから。わしらそんなことばっかりやもん、日雇いやから。

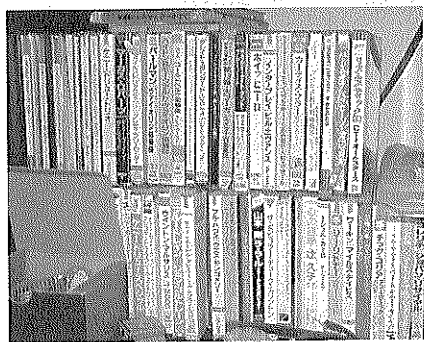
おぼはんは、おぼはんの生活や、わし一銭もやらへん。はじめから一緒になる時から独立採算や。だいたい籍入れとれへんねん。おぼはんは、「籍を入れてくれ」言うてんけど、「わしんとこ籍入れたら、一生らい病の筋や言われるさかい、やめとけ」言うて。今でもそうやで、そりやあたりまえや。正

式などこへ行つて、もの言われへんがな。偏見があるからな。介護員とお医者さんの対応がええから、外の人が、年寄りの人が療養所を見て、ここへ入りたいと。ところがこのハンセンという名前が付くのが嫌さによ来んと、これが本当の真実。ということは結局お金にこだわるわけやな、でハンセンという名前にこだわるわけや。それやからここに、全国の孤児の、収容所みたいな幼稚園を建てるという話があつたんや。いや決まっとたんや、愛生園の東にな。ところが、ハンセンと一緒にいたんでベケになつたんや。そりややつば、「岡山で『日生に行つて来ます』言うたら、『らい病のところへ行つて来るんですか』言われる」言うんや、年寄りが。若い人はいいけども。そらほんまや、おばはんの前で言いよるんやからな。それで、こういうこともあるんやで。「ここで亡くなつたら具合悪いので、前の売店、あそこへ籍を、居住権を移させてくれ」言うて、ここにおりながら向こうに籍を置いとる人もたくさんあんねん。というのは恩給年金貰えるやろ。そういうわけなんで、やはり家との交渉やなんやには、光明園とは書けへん。6253番地ではあかんのや。同じ光明園の土地でも官舎の地番とこつちの地番と違うからな。地番ですつとわかるのよ。

現在、わしらの年代はな、やはりこんだけ救われたいう有り難みの方がわしゃ強いわけや。とてもやないが、普通に生活しよう思うたら…。社会保障が終戦後初めて発達して、社

会福祉政策が進んで、福祉大学いうのまでできたやろ、そんな時代や。まあ、家計簿の足しにする勉強するのが福祉大や、そういうのができたんやからな。それやつて昔と違つわ、考え方がな。

行政とか望むことはな、やはり要求団体やから、要求せんことには、政府はみてくれへん。それやから、やはり無理な要求ばかりをしよるわけや。うちの家内が病気で外の病院に入院したら、入院した六人ベットのところで、その部屋代からトイレの何からいうたら別契約で結んでいかなあかんやろ。この場合は何にもいらん。こんな結構なところあらへんのや。まあ特に病院の環境はこれが、十分。看護婦さんもな、慣れて親切にやつてくれるから。それやから何一つ言うこと無いけど、言わんことにはしてくれんねん。これ、昔の行政や。



ジャズを聴くのが趣味という
芳山さんのコレクション

法律の廃止から10年「解放された心」

菊池恵楓園 M・Iさん (69歳/男)

昭和39年、29歳の時、菊池恵楓園に入所しました。在園年数は44年になります。

平成10年から始まりました一連の裁判より、講演依頼を受け、京都からこっち（西日本中心）、大分行きました。

私は、兵庫県の出身です。発病当時は尼崎で働いておりました。発病しても普通神戸、大阪あたりの病院、皮膚科でそのハンセン病は治療していませんからね。まあ厚生省がこのハンセン病の治療では独占していたことになるのかなあ、薬をですね。私の場合は一日おきに阪大（大阪大学伊藤教室）まで行かなくてはならなかったわけだから。一日おきに小さな粒、DDSを2粒づつ飲まされて、だから一週間分、あるいは二週間分、まとめてその薬を出して貰えば、その仕事へ行けたと思うけど。薬は貰えない。そこが難しいところなんです。一日ごと仕事を休んでごらん下さい。もう仕事できない、暮らしはできない。病院に行かなきゃ治療ができないならもう療養所に入らなきゃ仕方がない。自然とそういう風な追い込みがあった。そこが私に取っては一番厳しかったところなんです。もう自然とそういう生き方しかできないでしょ。

まあ、皮膚科に行ってから県庁が来るの早かったですね。すぐ病院が県庁予防課に連絡してましたからね。連絡する義

務が、法律の中にあつた。

恵楓園に入所するときは、県庁の車で来ました。運転手の乗る前の席と私が乗る後部座席の間はビニールが三重ぐらい貼つてあつたね。それだけ県庁職員としても恐ろしい病気がつたわけですよ。まあ、法律に従つたことと思えますよ、伝染病扱いですからね。

入所して事務手続きをする中で、このケースワーカーに勧められ園名に変えました。そうでなかったら自分の名前を変えらるなんて思いつきもしませんよ、一番取初に入ってきて。中には本名で暮らしている人もおられるから、その時代の、その担当者の気持ち次第でしょうね。私の戸籍の人生ちゅうのはないような、そこで入つたと一緒に終わったということですね。まあ世間に洩れんように隠した方がいいですよ、病院側の親心だったのか、もうあんたは社会から、これから縁が切れるから名前変えんとだめちゅうことだったのかなあ。「名前変えなさい。明日までに考えときなさい」と言われたことが善意だったのか、法律に従つたまじめな仕事だったのかわからない。でも私ら裁判に向かつたものは、やはり悪意にとるわけですよ。一人の人間としては、もう抹殺されたちゅうね。

入所時の園の様子ですが、私が入ったまあ昭和40年頃とする。その頃からこの中でこういう部屋で暮らして、外の作業仕事をするということは割とできたんですよ。予防法の闘い、あるいは裁判の闘いで、隔離されたちゅう発言しますけどねえ、割とそういう時には、ここの職員ももう知って知らないふりして、だから（T・Tさんたちみたいに）大工する人、あるいは、ダンプコンクリのああいふ車に乗ったり、あるいはこの近くの農作業に行ったり、いろんな人がたくさんおりました。全くこの壁から一步も出れなかつたいう時代は、それ以前はあつたかもしれませんが。でも昭和40年頃からはもう割と見て見ない振りしてました。しかし、あんだだけの壁があるということは予防法があるということはおおしい時代も長かつたいうことですよ。ですからまあ私は、少し運のいい時代に入ったのかもしれない。それでも予防法という法律は、法律と照らせばああいう厳しいわけですからね、ただ見ない振りしてただけでね。

法律の廃止から10年、やつぱり法がなくなつたということは、私ら解放されたいうことですから、気持ちだけでもそりや変わつていますよ。

その平成15年の黒川温泉みたいな宿泊拒否が、昔は平気で向こう側がね、拒否したつて平気だつたわけ。平気ちゅうか、あんたたち伝染病ちゅう、強い伝染病、伝染病いうて隔離されとるからダメですよいうて、法律を盾にとつて断りができ

たけれども、今はそれが、ここの公務員さんだつて、法律に従つて、法律にまじめに仕事をしとけば、こっち側の、どういふ気持ちで侵されてもとまらなかつたわけですからね。こんな法律があるから、法律にまじめに仕事すると、やつぱち側としちゃあ、いろいろな人権を侵されたり、嫌な思いをすることだつてたくさんあつた。あつてもそれが自然だつたわけですからね。その付近がやつぱりまあ、私たち入所者を縛つて法律がありませんから、その分はもう一般の国民として扱つてもらふということだから、解放されたということでしょうね。しかし、その時代はお互いに高齢になつてしまつて、自分の身体がきかないよになつた。ここがもう、これが取り返しのかないことですよ。中にはやつぱり子どももつくれなかつたいうことですね。私にとつても、今はつらい思い出です。

それでも裁判の話が出た時の最初の気持ちは、おもしろくなかつた。入所者は原告の方が少ないけんね。それと国に向かつて裁判を起こすなんて、まあどういふ気持ちかちゅういふ人が多かつたね。電話が来たりしてね、そんないらん事止めとつたほうがええんじゃないかちゅう言う人もいたし、これから療養所の中で暮らせんよになるぞとかね。ただただ、裁判とか何とかいうのを嫌う人と、もう一つ思いがね、らい予防法があるから、この今の私たちの費用は全部国がみてくれる。らい予防法がなくなつたり、裁判をしたりすると、

国の予算が、俺たちの予算がもうなくなるちゅう不安を持った人もおるんですよ。らい予防法があるから、この職員これだけ付けてくれる、それで医療費を負担してくれる、生活費を負担してくれるちゅう。予防法があるから、今まで通りにしとつたら国からくるけども、予防法がなくなつたら、みんな追い出されるぞちゅう不安な人もいたわけ。

そういう不安な面を持つことが確かにあつた、あつたんですよ。こんだけの今、三度三度ご飯が来て医療を受けられて、福祉の面でもある程度してもらつたこの制度を崩すなちゅうね。だから、全寮協の患者運動ではね、法廃止は一言も言うてないんですよ。法の改正までしか言うてないんですよ。廃止はやつば恐かつたわけ。これから自分たちが生きて行かないかもわからない。予防法で守られとつた方が無難かも分からんという考え方ね。だから、ある日突然、もう法廃止されたから、患者、全寮協、各支部、気持ちがあつて行けなかつたという時期がしばらくあつたんですよ。予算大丈夫かいうて。全国の13圏の予算が四百二十億ぐらいですか、ほとんど80%は人件費ですけどね。そんだけの予算が今年は止まるかもわからんちゅうて、予防法がなくなつたら、ほとんどもうこの療養所から出ていかならんかという不安は、何人か、何十人か、何百人か思つたわけです。ただただ、あの裁判なんてなんごつちちゅう、なんも考えないで反対した人もたくさんいたわけ。

原告にならなかつた方の中にも、消極的と絶対反対といつかあるんですよ。だから私もそこ行つて話しをするときや、療養所全体の意見を代表してないちゅうことは、必ず言うわけですよ。私の考えちゅう風に、それでないとみんなを代表してなんて私が言うことは、俺はそんなことは思うてはない言う人も沢山いるわけ。ほんでもやつぱり国がね裁判した人には「賠償金」、しなくて同じ金額貰つた人には「保証金」という名前で、入所の年数によつてね、違うけど、まあ出してくれたから、みんな裁判自体についてちやあ、まあ感謝まで行かなくても、入所者にとっては大きな金でしたよ。：ほんな纏まつた金貰えるなんて思つてもみなかつたもんね。それが出たおかげで、今まで音信不通だつた家族の人たちとも少しは行き来ができるようになった人もいるからね。やつぱり幸せな部分じゃないですか、それを基にしてね。

社会復帰されている方も正式には53名かなあ、出たのは。それでも2人は帰つて来ています、ああ二年ぐらい暮らしたのかなあ。社会に慣れてないせいもありますよ、やつぱり友達もいなかった、孤独みたいですね。夫婦で出て、2人ならそんなこともないやろうけど、一人で、一からお友達作つて、ここで三度三度ご飯も食うじゃないですか、そういう暮らしからしたら、えらい違いです。自分で作つて、暮らすいうことはねえ。そんなやつぱり、いろんな病気になるじゃないですか高齢ですからね。77になりますかねえ恵楓園も県民も。そ

家族との絆「里帰り」

菊池恵楓園 T・Tさん（77歳／男）

わたしは、昭和35年に菊池恵楓園に入所しました。今年で在園47年になります。

それ（入所）まで一生懸命仕事しようたですよ。仕事は大工です。大分使うてもらうた、使うたしね。大阪から行きましたわ。この辺り（熊本）ずっと仕事してね。岡山にも園があるけど、たまたま熊本に来てたという事で恵楓園になりました。少年学校行つておつてね、それから修了して、弟子に入つて三年おつて、大工仕事を覚えてね。病氣治してやるいうて、二十歳かそこらでここに入つて。

入所してからは外に出て仕事しました。ここから園の外に通いで。療養所の中はそうですね、当時（昭和40年頃か）割と自由がきいてね。もうこの職員さんの方からね、大工してくれ、直してくれいうて、家も大分造りましたよ。

私なんかほんと幸せですよ。私は、そうでしたからね。園の外で仕事をしているのも職員さんを見て見ないふりしてね。うちらが入つた時にはけっこうもう幸せでした。私にとつてはね。同僚のTさん、Hさんも地下足袋履いてね、ニッカポッカ着てあんだ、單車に乗つてね、ずっと仕事に廻りようたですからね。仕事はね、丁寧丁寧に、仕事だけはね、わしやきれいにしよつたですね。やつぱりちゃんとせなあかんと

いう気持ちでね。

妻は、私が病氣なつてこっち入所してから、そうですね4・5年は一人で子どもの面倒をみてね暮らしてる。もうかわいそうやけどと私がね、自由になつてくれいうて手紙書いたらな、そのうちに結婚しとつたです。今大阪にいますよ。やりとりは、いやたまに、こどもがおるけんね。いやもう、離れてから3年じゃけんね。お互いにそんな、子どもだけです。

家族は大阪に、娘が2人、孫が5人います。里帰りの時は、ときどき会います。去年はね、車でね行きましたよ。一週間程度おつてね、一緒に帰つてきました。うん、ここ（熊本）に泊まつてね。それで、その時泊まりに来た孫が4人もおつてますからね、それやからホテルを予約してね、ごはんだけはいちいちこう炊いて食べて。きこな温泉いうて温泉もあるしね、ホテルもありますから。

兵庫県に里帰りした時は、そうですね三年にいつべんぐらいいですかね、大阪に会いに行つてます。娘連中は仕事があるのですね、私の方から行つてるのですよ。

もつと若かつたらね、大阪に暮らそうとかそんな話もあるかもわからんけど、歳とつてからはもうなかなかね。園の方が友達も多いし。どこに行くにしろ、身体にしろ、まあ一週

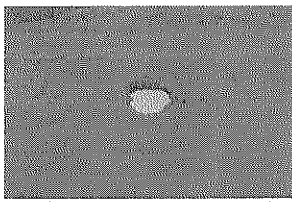
間か十日ぐらいはね、どうにかするけど。向こうの人たちはやっぱ嫌がりますよ。年寄り。自分がずっと仕事でもしとつたらね、ほりもありますけど。もう今のところはあれですね、ずっと写真一筋です。撮りに行ったも運、不運があり、シャッターチャンスが無い時もありますけどね。ポストンバッグ買ってね。泊まりがけでね、他県の間や谷によいきようたですよ。

家族とね、やりとりのない人も多いですけど、私はね、ほんと最初からですからね、ほんと、幸せですよ。なんの心配もなかったですからね、健康だったからでもんね、あん頃うん、よそ行つても嫌う人もおらんしね。みんなあれですね、身元をね探してくれとかいうこともあるらしいけど、わしゃ、あれですよ、病気になるだけ幸せやった。

今は、やっぱり入園者が亡くなったいうて、電話一本でやっぱり、今も何人かおられるけど、家族が線香あげにこらしたりな、遺骨をもつて帰つたりしておられるもんね。うちの頃は全然ぞうじやなかったですよ。そうそ親戚のあれがね、葬式から電話してもね、身内が動かんもんね。前は療養所仲間だけで送りようたですよ。ケースワーカーが世話してなにがしか持つて帰りようたですよ。まあこの入所者も親まではなかなかないけど、兄弟、甥姪あたりがよく来ますよ。普段、裁判の勝訴にかかわらず来てもらえたらと思うけど、少なかったですね。昔は、あれやもんね、その、金を貰おう

なんちゆうこつもないしねえ、面会も出てこんしねえ。まあ何十年も経つと面会にも来ないですね。そりや近くばかりじゃないでしよう、日本中だもんね。飛行機代、電車代使うてきませんよ。費用かかるもん。

7・8年に一度の里帰りも、毎年行かせて貰おうなんて思ひもしなかった。けど、今は毎年寄らして貰うたけんね、感謝しています。実際、里帰りに参加できないいう人たちがねどう思っているのか、その分身体が弱つておられるけども。記録集も残しておかないと、証言する人もあと10年ないだろうと思ひます。いや、あと10年というより、この5・6年がわからんでももんね、足取りがどうも……。足取りで自分がわかる。もう自然に。3年前まで里帰りに参加していたTさんも、もうね。もう調子狂うまでね、買い物やらやつて、案外元氣やつたですけどね。この1・2年あれでもん、足が弱つたいうて。足腰が元氣なうちは、里帰りに参加して、家族に会いたいと思つてます。



恵楓園に保管されている
嘆きの壁の一部

退所者の座談会

ハンセン病問題の中で特に注目されてきたことの一つに回復者の社会復帰の問題がありました。去る平成18年10月5日県民会館に於いて、関西退所者原告団「いちよの会」の方々に集まっていたいただき、退所前後の貴重なお話をうかがいました。医療の話や住居の話など身近な問題にも触れ、今後社会復帰される方の参考になればと考えます。

対談参加者紹介

I・Tさん 64歳男性 昭和31年12歳で長島愛生園に入所

昭和33年に逃亡、在園年数約2年

現在、全国退所者原告団の会長として活躍

M・Rさん 64歳男性 昭和32年14歳で長島愛生園に入所

昭和44年26歳で軽快退所、在園年数11年

現在は民間のボランティアとして知的障害者施設で作業従事

M・Mさん 74歳男性 昭和18年9歳で長島愛生園に入所

昭和23年14歳で退所、在園年数約5年

趣味で地域の将棋クラブに所属

T・Nさん 54歳男性 昭和42年13歳で邑久光明園に入所

その後、中学校の関係で長島愛生園に移る（在園年数トータルで約25年）昭和47年18歳一時帰省で帰郷するも、昭和56年28歳で再入所

平成14年49歳で社会復帰、現在はアルバイトで造園勤務

■入所当時の社会の様子や、県庁、保健所職員等の対応
司会 入所された当時の県職員の対応ですね、国の職員とか警察とかが関与したと思いますが、そういう当時の様子が、昔のことであまり資料が残っていないので、皆さんの証言が一番の証拠になるかなと思います。

I・T まずは県庁やな。今わしらはどつかの病院で診察してもらおうとする。そしたら、その病院から県の人々が、すぐ俺んどこに来るわけよ。それでうちのおかあさん、（今はハンセン病やけどその時はらい病やった）らい病やからうつるから、すぐに強制隔離せないかん。病気がわかって一週間足らずで、県庁の人間が3人ほど来たわ、わし迎えにな。そこでちよつと説明やって、だましましたまし連れて行かれた。それで31年の4月長島に入つて、その夏に帰省できる言うから、それで光田園長に「帰省させてください」言うたわけや。そしてたら、「まだらい菌がよけおるから、そういう出入りは無理や」言われて、その時にわしは逃し生活を考えたんやけどな。昭和40年頃は、まず帰省させてくれいうたら、（耳をさわり

ながら)こころ切つて菌検査をする。それからありとあらゆるとこ切るわけ。それが終わると帰省の願書みたいな紙を貰うて、岡山だったら岡山へ買い物に行く。その当時は船に乗つて行きよるわけ。船乗つて、バス降りるやん。降りたらバスの運転手が、一番最初に、「証明書見せえ」言う。園から出とうさかいに、むしろ大丈夫か言うから、「おまえ誰に言うんや」というて、ようけんかしたからなあ。

司会 バスの運転手は園からの人いうことは知つてたんですか。

IT その船着き場はバス停が一緒やねんな。それで見られるやろ。村の人間ちやうやんみたいな感じが。わかるやろ。TN わかる。地の人間じゃないもん。もうそういう人間は、ハンセン病の関係者や、証明書見せる言うて。

IT そういう厳しさはまずあつた。それから園であつた。あつち側のお医者さんとか看護婦さんとかいう官舎とこつち側の療養所、この真ん中には2メートルぐらいの大きな看板がかかつておつたわけ。「らいは、これ以上立ち入り禁止」いうてな。もう園がまつぶたつになつた。厳しう書いとつたやろ。裁判の時にも問題になつとつたけど。

MM そつから出られん。出るときには署名がいる。

■入所された当時の園の様子
お金を消費

MR 俺も聞いたんじゃけど、高校時代、新良田教室の時

に先生は白衣を着てる。それで職員室の中に、患者は、生徒はね絶対入れない。で、何かを買うてくれ言うてお金を渡すとそのお金を消費して、窓に貼つてたい。

TN 昔は分館でもしようたからね。お金渡したら、もう目の前で消毒しよつたで。こうやつてピンセットみたいなものに挟んで。私の時で昭和40：42年くらい。それからしばらくしてからなくなつたよ。

MR IT君が今さつき言うたんやけど、「おまえはらい病やからどうの言われて、やりきれなんだ」という話し聞いたるからものすこひどいことやつとるなあ思うよ。僕は入所した時は滋賀県だから。長浜の日赤病院というところから、保険証もつて京都の大病院に行つとるわけです。それからいうたら、この当時兵庫県の場合は特にひどいかなあという、IT君と入所年月は一年しか変わつていないのに。

患者売店と職員売店

IT 今さつきTNが言うたみたいに、他の消費でもそうや。園には売店が二つあんねん、患者売店と職員売店。患者の売店は昼までで終わつてまうわけや。職員売店は昼から開いとう。そこで、物が欲しい時に、自分にはお金持つて来ても買われへん。ここに分館があつて、その人事課に通して給が欲しい、アイスクリームが欲しい言うて伝達してもらつた。そしたら、職員売店の人が、売店の前に小さい公園みたいなところがあつて、そこへ置くねん。中で頼んだ物を外へ置いて。とらさんように、売店の中入つて来らさんようにな。

MM 何年ぐらゐまで続いた？

IT 40年過ぎぐらゐ、僕らぐらゐまでや。お金は受け取らない、その売店の人が。今から考えたらぞっとする。

TN 僕らが入った時もあったかな。42年、別にされとつたなあ。それでも、何年かでなくなつた。

手紙の受け渡し

MM 手紙来るでしょ、ああいうのどないしよつた。

IT それはあんまり、刑務所みたいなことはなかつたけど。そのままこうストレートで来ようたしな。

TN 郵便物は開封しようた。

MM 戦前はね、手紙とかが来る。すると「ITさん、分館に手紙来とる、取りに來い」言うわけや。行つたら分館の職員が、封筒をハサミで切るねん。金入つてないか、調べるわけやな。それで渡しよつた。小包なんかは見なあかん言うて、包装紙全部剥がして、「ええよ、じゃ持つて帰れ」言うた。

IT 刑務所と一緒やな。分館は皆、紙貼つとつたやろ。わしらもの言うのに、直にこういうものの言いかたできんと紙貼つとたやな、ずうつと。これ(B5)ぐらゐの。

TN 昔の馬券売り場みたいなのやろ。こんなちっちゃい窓口から手渡ししたやつやろ。

IT そうそう。

長島神社参り

MM 入所者の一人が、光田園長にな、家に帰してくれいうて行つたわけやね。そしたら園長が「海の水が全部引いた

ら帰してやる、潮水が引いたところを歩いて帰りんさい」言うた。だからその人が炊事場のとこに長い棧橋があつたやろ、そこへ朝、昼、晩、潮が引くようにいつも拌みにいきよつた。潮が引かんから、その人死んだけどな。そんなこと言いよつたし、園長が。わしゃ帰してくれたけどな。

MR あの島の神社？

MM ああ長島神社の横に長い棧橋あつたやんか。あの棧橋の先いつて拌みよつたんや、潮水が引くようにな。

司会 今はその棧橋はないんですか？

MM 棧橋は今ないなあ。長島神社には、記念碑があつてね。毎月二十日、朝早うから準備して、向こう行つて、上まであがつてね、拌みよつた。

MR この間、潮が引いとつたから、上まで歩いて行つたら、なんにも、ありやせんかつた。

TN こんなちっちゃな祠がある。昔は、記念碑があつたみたいだけどな。

MR 賽銭箱あつたけど、潰れたんちゃうんか。

TN ううん。俺ら知つてる頃からない、そんなん。

司会 毎月二十日っていうのは何か意味があるんですか。

MM 長島(愛生園)のできた記念日やね。

IT わしらとMMさんのもの見方いうたら10年ちやうからな、長島の先輩やからずつと。だからわしらはそんなん知らんもん。

TN 恵みの日か、何かなつとるでしょ。だから死んだら

恵みの日を月命日とかいう形でね、毎月お参り行つとつたで
しよ、昔はね。

職員船「愛生丸」

MR 職員だけが乗る「職員船」と、「森丸」という定期
船があった。

MM 職員船は「愛生丸」いうてね、患者が待つてるのね。
それで長島の古い歌がある。「シンセイバンセイ、虫明けの」
いうてな。

MR 俺が高校におつた時に帰省するやんか。まあ一応、
何日から何日まで帰省しますいうて、ほんで田舎へ帰るわな。

田舎へ帰つて、それで園に帰つて来るやろ、その時でも職員
船は、中じゃあ入れてくれんかった。デッキのそこにおつた。

TN それは俺ん時も一緒やった。中は入れんかった。ほ
んま区別しとつたからな。デッキの寒いとこでな。普通だつ
たら反対やん。病人が中は入つて、健康な人が外で、これが
逆やねん。だから体悪いのによけい悪うなるわけよ。手はか
じかむし、寒いし。雪の降つてるときに外行くからな。も
う船降りたらもうこんなんや。(身を縮めて震えてみせる)

一時帰省のための菌検査

MR もうほんと感じたのは、高校の時に夏休みやからい
うて田舎に帰るじや。田舎に家に帰るとほつとする。今度2
週間いうたら2週間で帰つてこないかん。ほんと、いやあな
感じがしたわな、大阪からまた帰らないかんのかいうて。

「T」なんて帰つたんやろな、あの時。

TN そりゃ、子どもに会いたい、家族に会いたい。

「T」それはある、家族に会いに行つたんはわかるわいな。
会いに行つて島に帰らんでええのに、なんで島に帰りようた
んやろな。

MR まあ俺の感じでは病氣は治さなあかんいう頭やつた
んや思う。それだからいややけど、帰らなしゃあない、その
時はな。そんなん食事だつていいもんじゃねえが、3度3度
は出るけどさ。それに腹一杯食べたわけじゃねえが。もう
17・8歳やろ、そんな若いのにさ、食うがなあ。

「T」マインドコントロールみたいなのされとるさかいな。
TN しばらく染みついとつたもん、ああいう感覚がね。
だから園の外で食事しても、欠けた器に入れて、夜に出され
たりしようた。使つたら捨てるような器で、わざとね。患者
いうのわかつたら、もう来るないうことやね。

MR 俺が出る時に菌検査をしながら、その時先生に「そ
んな顔して出て行くんか」言われてかちんつときた。腹が立
つたけど出たいいう気があるからな。このおつさんに、ああ
先生やけどな、そう言うことに対して、それも一つの危機感
になつとるわな。それで、くそいう気がある。絶対出る、
そんな感じで。規則は規則やから、無菌である証明だけはし
っかりして出て行くという気があつたから、菌検査だけはし
っかりして出て行つたわけよ。いや、あん時のことは絶対忘
れん、先生の名前は忘れたけどな、あれっだけはわし忘れん。

「回春寮」

Ⅰ T 初めておかんに長島に連れて行かれて、あの回春寮、あそこに放り込まれた。そこにお父さんみたいな人が一人おる、当番兵みたいな人が。それからちよつと表に出たら50メートルほど先に監房が見えんねん。その人が、おかんとわたしに、「けんかしたり逃げたら、もう一生で出れんようにするぞ」というような言葉をやな、こうこう教えんねん。あの時にはもう、何やコントロールされてもうとるな。「おまえは逃げたらあの豚箱に放り込むぞ。一生出られへんぞ」ということがずうつと入ってしまった、頭ん中へ。それが一番最初やな。それから、おかんと映画見に行つたんや。その晩に丁度映画やつて。長島に大きな映画館があつたわけよ、2階立ての。

T N 今の愛生会館があるところ、古い会館があつたよ。

M R キリスト教のやつで。

Ⅰ T うちのおかんとわしは2階へ上がった。それで2階の真ん中の一番ええところに座つた、2人で。そしたらどつかのおっさんがな、その2階は患者さんはあかんいうて。

M M 患者は、上がったらあかんねん。

Ⅰ T その時分まだけんかの仕方知らんし、何も知らんし、子どもやし、いやもう親に手つなされて、下に降りてきて観た思ひ出があるなあ。その監房、その差別がすごかつたな。入所してからすぐ、そういう差別がばつと出てくる。

T N 入つた時に、だいたい回春寮預かつて教えるわけや。

4・5日、そういう教育実習みたいなやつ。教えて植え込ん

で、それから寮へ入れる。

M R 回春寮いうんで思い出したわ。親父と一緒に رفتらんやけど、入所の時に名前を変えろとか、変えんとかいうてあつたやろ。俺は何もわからずに、園の中で使う名前、園名というのを作つて、「じゃあおまえ今日からこの名前使うんだ」と言われて。だから現在の名前は使えなかつた。

T N ああそうか、変えなあかんかつたん。俺らどつちでもよかつたんや、どつちにするかいうて。

Ⅰ T わしもおかんがそのまま言うた。

M R 俺は、親父がそういう感じで何もわからんから、はいはいうて名前変えたんやけど。

少年舎での生活、寮の名前の由来

M M 朝は何時に起きよつた？

Ⅰ T 少年舎は朝6時頃かの。朝はみそ汁ばかりやつた。

M M おつちゃんの時分はな、ラッパ鳴んねん。昭和18年入所してからな。ラッパが鳴つたら、みんながわあつて起きるねん。そしたら廊下に一列に並ばなあかんねん。

T N 厳しい時や。

M M 寮長がおつて「おはようございます」言うてな、朝。

Ⅰ T 軍隊やないか。

M M そういう時代。それが済んだら掃除や。

Ⅰ T 少年舎におつたん？どこにおつたん、「八報」？

M M いや、「八報」は後からや。「白兔」、白兔寮。それから「日本」に行つて、「八報」。

TN 俺も「白兔」におった。

IT わし「日本」や。

MR あれ一年一年変わるからな。

IT 「八報」「日本」いうんは建物、寮の名前や。

MR ようは「白兔」いうたら鳥取県の白兔地方、あの

「白兔」だから。

MM みんな県が寄付した。平安寮いうのは、京都が平安が寄付したわけですな。お金出してね。

IT ああ、それがあんのか。わし初めて知ったわ。

司会 兵庫県の飾磨寮とかあつたんですか。兵庫寮とか。

MM 兵庫寮はあつたな。

TN うん、あつたよ。

IT 飾磨寮いうのはあつたん？どこらへんにあつた？

MM あれは大人ちやうか、少年舎ではない。

MR 夫婦舎でもほら、いろいろな名前がついとつたやん。

あの中にあるんちやうかな。

MM 金がようけ来るとこはな大きいの造んのよ。ちよつ

と、窮した県はね、小さな夫婦舎みたいな造つとた、それで名前ついとつたな。

IT ほんまか、少年舎の由来はじめて聞いたの、わしや。

MR うちもあの「三朝」とかいろいろな名前あつたやんか。三朝温泉の「三朝」やな。だから、あそこからの寄付いうこつちやろ。おれは、そういう話しは聞いたる。だから兵庫県の、その飾磨寮なんて聞いたことないなあ。

司会 資料探したらあつたんですよ。兵庫県で集めて、寄付して第2飾磨寮とかね。

MM 今はもう、みな古くなつたでしよう。潰して……

TN 建て替えるからね。今はわからへん。

IT 「八報」は8畳の間に4・5人おつたやろ。

MM 「八報」やつたら6人おつた。「平安」の部屋はな、多いとき8人おつた。

MR 俺らのおつた白兔寮いうんは、そんな大きいない。白兔寮は2人やつたかな。4畳半やつたやろ。IT君と二人ぐらいやつたと思うけどな。

MM あの頃は木刀もつてな海岸まで走つとたな。走つたやろ、軍隊練習させてる。

TN そら敵しいからな、大日本帝国。

MM それで朝5時半からグラウンド集めて体操さすねん。「気を付け」言われて。わし入れて、120人ぐらいおつた。

TN みんな畑作つたりしようたな。

MM 戦前ははね、白兔寮の裏に、防空壕があつたん。それで、いつ（空襲が）来るか確認しようたね。防空壕皆入れうて。

IT 沖縄ではそんなんよう聞いてきたけどな、まあまあ長島で、そんなん初めて聞いたわ。

MR うん、俺も初めて聞いた。

MM それで戦争の最中はね、ご飯が大人380グラムやねん。少年舎は400グラム。子どもだから食いざかりだか

ら。夫婦舎は全部380グラム、そう決まるとる。だから飯
ごう持つて行くやろ、ぱぱつと量る。それから、そばを取り
に行くやろ。それを持って帰って野菜を入れて雑炊して食べ
よる。それでも、みそがあつたからね。しょうゆもあつたし。

T N 結構きついな。

M M 朝は全部そうや、ほとんど雑炊。それで今の時期は
里芋入れたりな、じゃがいも入れて雑炊しようた。

T N そりゃ腹減るわ、俺らでも腹減りようた。高校の寮
やから先輩から先食べるやん。そしたら、ご飯なくなつてく
んねん。それで段取りするのが一年ぐらいかかった。二年目
に段取りして順番に食べられた。そうせなんだら腹が減るか
らな。何か、摘んできて食べたり。

M M 山行って、ひよどりなんか捕まえて。渡り鳥とかな。

M R かき狩りとか。

M M うん、メジナとかな。それで少年舎の上の方へ上が
ると山があるやろ、どんぐりとか、それ子どもが取りに行っ
てきて食べたな。

■退所された時の園の様子と対応

司会 M Mさんの時にプロミンが出だしたんですね。

M M わしは、プロミンが出る前に逃亡した。入所して5年
しても帰れないから、昭和23年に一時帰省して戻らなかつた。

I T そんな時期に一時帰省があるか。

M R 外出させて、出て行って、そのまま帰って来んいう、

普通そういう形は多かつたでしよ。

I T 昭和38年頃までは一時帰省ささん。

M M さしようた、さしようた。

I T いや、わしがどれだけ分館行って帰らせいうてたか。
それでも帰らさんつて。菌が出えへんけど帰らさん。一番き
つい時やで。あの28年また予防法変わつて隔離政策が変わつ
てるさかいな。それから38年か40年頃なつて、※藤楓協会が
出てきて、退所したら3万か2万かくれるいう話が出た。

T N うん、そういやそんな時期があつたな。

I T それから大分、出入りが、柔らかあなつた。菌検査
もなくなつた。

プロミン・DDS、ハンセン病回復裏話

M R 僕はハイスクールの時、病状がかなり悪かつたから、
よう熱とか、我々の言葉で言う結節、熱こぶ、そういうもん
が出たわけです。だから3年か4年はものすごく苦しんでお
るわけです。あの時はもうプロミンがあつたから、僕はプロ
ミン注射をすうつとやつとるわけです。4年か5年か。その
後にこんどは小さい粒、錠剤のDDSというのが出てね。

I T もうだいたい病状落ち着いたやろ。

※藤楓協会：昭和6（1931）年貞明皇后のご下賜金を基金とし
て（財）癩子防協会設立（政財界人と内務官僚が主導で設立）当時
「無らい県運動」を推進。昭和27年（財）藤楓協会と改称。事業内
容は、ハンセン病予防・治療についての調査研究、ハンセン病啓発
事業、高松宮記念ハンセン病資料館の運営等。平成15（2003）
年解散、事業は「社会福祉法人ふれあい福祉協会」が継承

MR もう落ち着いてる。

IT DDSがよう効いたわ。

MR まあ、医者にはよう言わなんだけど、自分は信じてる。酒でね治してる。お正月に県人会があるんですよ。兵庫県人会とかあるでしょう。いろいろ似たようなのがあつて、愛生園における当時は滋賀県人会だったんですよ。その滋賀県人会の会長さんが、遊びにおいて言うんで行ったら、その時に酒のちゃんぽんを、ウイスキー、ビール、日本酒、何でもござれで胸を悪くしとる。そしたら次の日にまた熱がぶわつと出て、それではあゝつと終わつたかいな、病気が。だから、おれは酒の功労じゃなあいうてな。

司会 そういふのは作用あるかもしれませぬ。熱で…

MR うん。この病気には乾性と湿性とある。混合いふのもあるけど、僕は湿性やつたわけ。ということとは熱こぶとかが出る体質。それで、はじめ型から乾いた感じの方に転換されていって、完全に落ち着いたという感じですね。

■退所された当時の生活

退所後の仕事

MR 高校卒業したけど、なにしろお金がない、外に出られないからいうて、しばらく自分は、園内作業をやつて、まあ月よう入つても月5000円ぐらいの金ですけどね。それをなんとか貯めて、退所する時だれもたよりにしてないわけです。ただ、あの当時大阪に双子の弟がいて、弟をたよつて、

出て行つてるんですけど。それで仕事は、一番最初に入つたのが新聞屋さんです。なんでかいうたら、当時はそういう障害者を雇う制度がないし、障害もつとるために普通の企業ではなかなか受け入れられない。たまたま新聞の広告を見て、募集しとるから行こうかと、それがはじまりなんです。僕は障害者、手が悪いからいうんで厚生年金が欲しい思つて、あちこち同じ新聞屋さんを転々としとるわけです。厚生年金、それから社会保険、そんなん欲しかつたから。くれるとこ10何方所歩いとるわけです。大阪、それから伊丹、神戸も2・3カ所行きようるんですかね。で、落ち着いたのが、芦屋です。芦屋の新聞屋で結局25年働きましたわな。そこも、もう引退しました。はい、円満退職です。(笑)今は、ボランティアに行つとるんです。知能障害の施設とかいろいろ。

司会 それは市のボランティアかなんかですか、それとも民間のボランティア?

MR 民間の、個人のボランティアで作業場に行つていま。今はもう抜けるに抜けれないつていう、どういふのかなあ、もう頼りにされてるつて感じ。ここは大きな僕たちの支援先もあるし、僕も今までの障害者に対して、支援に対してお返しをしようかなとゆうような感じですよ。

MM わし、今の園の中の様子、全然知らんもんね。23年に出てから一回も帰つてへんから、だからわからん。いや遊びに行くのも、ずうつとこつちやもんね。孫が現在4人おるからね。森さんも大分古いんやろ。

MR うん、退所してから40年近くになる。俺も一回も帰ったことはない。そりゃ面会には行くけど。車で行って、あの橋渡る時には、「やったあ、きた」っていう思いがある。

TT こいつはええ根性しとるで。聞いたよ、この園から逃亡して新聞配達してな、25年間一人で、この身体で生きてきたというのは、こいつの根性いうのはへんこやし、もうすごいものや思うわ。俺はその分は尊敬はしとんやけどな。へんこやから、根性あるさかいに、ここまでやれたんや思うわ、ほんま。で、いまだにそのボランティアの仕事しとるやろ。

司会 退所される方というのは、気持ちが強いですか。

TT ちゃうちゃう、全然ちゃう。

TN だから最初から、外医療の医者につて治療してもろうとつたいぐらいいすこい。ぼくはハンセンで、こういう状態やけど診てくれるかいって、医者とけんかしながら、それで治療してきた言うさかいに、その根性はすこいよな。俺なんか隠してるもん、聞かれたくないもん。

MR (笑) そりゃあ、言わないかんよ、折れとつたからなアバラ。(35・6歳の時の事故)

TN それ言うて、理解して受け入れてくれた。薬は楽やけどな。その受けてくれる医者が少ない、まずないやん。それをやってきたいうのはすこいよ。

TT こいつの生き様はな、MMちゃんもそうやけど、みんなそれぞれな、根性がちゃうよ。

MM 園を出て行った昭和23年、大阪は焼け野原やねん。

親が住んどつたからそこへ帰って。焼け野原で何も配給もなくて、兄貴がおったけど兵隊いって、妹と親がおったしな、それで園に帰るに帰れんで。一年ぐらい食わして、そのうち兄貴が帰って。ああいう時代やったからね、苦労したわ。

TT だから長島に、長島だけ違ごうて、全国の療養所の在園者、まあ夫婦もんでおるやん。そりゃもう40歳過ぎたくらいの人が、これから都会出て仕事しよう思たらまず無理やで。後遺症もつとるしな。そこで落ち着いてしまう。もうそこが自分の人生の墓場だ思て、そこで生活してな。

MM そうやね、70歳過ぎたら表に出て仕事がないしな。

退所後の医療

司会 森さん、医療機関にかかる時に、説明を自分からされたとおっしゃっていますけど、その辺のごくろうとかあつたんでしょね。

MR 結果なんやけど、肋骨を3本折ってそれで二週間、萎縮いうのは進んどのから、その痛みいうのは薄れてる。それでもまあ二週間もしたら治るかなあ思ようたんですよ。それしたら全然治らん、それでこれはいかん、医者行って治療せないうて、西宮の渡辺の形成医院あるやんな。そこ行ってハンセンや言うたわけや、治してくれへんかと。それで医者が「療養所に帰った方がいいじゃないか」と言うから、俺は治つとるのに何で帰らないかんかという話になったん。とにかく俺がこんな状態やから、治してくれ言うた。ものすこい痛いから。この後、十二指潰瘍なつて胃を三分の二、十二指腸を

三分の一切つとんねん。それで、その時も言うとうつ、医者に。

TN そりや楽だと思うけど。その方が楽やけど、う〜ん。

司会 最初は園に帰つたらいい言われたんですね。

MR そう言われたんやけど、俺としたら仕事があるからな。何回も帰つとつたんじゃ、ずっと勤めた価値がないじゃ。俺の居場所があるわけやろ。また帰つてきて一から仕事探さなあかんなんてそんなんできませんやん。だから自分を守るためばつと言っちゃつた…。

IT 医者もばかやな。それで療養所に帰つたらええ言うつ。

TN そういう時代やった。それで苦勞しとるみんな。職を転々として一旦園に帰つても、10年後帰つて一からやり直し、また10年たつてまた帰つて、繰り返しや。

MR その話し聞いたことがあるんやけど、普通の会社やつたら、健康診断いうて年に一回必ず検診がありますやん。自分自身そうなつて、ずうつとこつちでやってきとるからね、検査を。うん、でも嘘を言うたことないよ。

IT こいつ一人やからな。これで嫁さんおつて、子どもがおつたら、そういうわけにはいかへん。

MR それはあつたかもしれん。

TN 人によつて事情は変わるからな、言える言えんは。

IT それでも、子ども持つとつたら、出てこうへん。テレビにも出んし、新聞にも出んしな。子どものいないこういうタイプはみな、わしや、わしや、言うて出るけど。

MR しつかりせいやいうてな(笑)

IT あんたやあんた、あんたのこというてるんで。(笑)

■予防法が廃止される前と廃止後の気持ちの変化と社会の対応

国賠訴訟、韓国・台湾支援

IT この1996年予防法が廃止になってから、1998年頃かな熊本裁判があつて、それから関西在住の退所者を集めて「関西退所者の会」を作つて、全国に発信して、今は全国退所者原告団。

司会 ITさんは、全国の退所者原告団の会長さんですね。

IT 沖繩奄美、ずつと熊本から関西、東京都、東海中部、まあ11ぐらいの支部があるけど、それをまとめて今厚労省に、いろいろな要求ごとを突きつけて。こないだ、※韓国台湾かな、ああいうのを支援したり、そういう活動をしとるね。

司会 そしたら韓国とか今たいへんなんじゃないですか。

IT いや韓国台湾はもう裁判で勝つたから、お金貰えるようになったからな。台湾は裁判で勝つたけど、韓国は裁判で負けた。負けたけど国と国の話し合いで、ちよつとでも出るようになった。あれはよう講演に行つたよ。

※韓国ソロクト、台湾樂生院で日本統治下において隔離されたハンセン病回復者が、日本国内と同様の補償を日本政府に求めた訴訟。
2005年10月東京地裁はソロクト訴訟は原告敗訴、樂生院訴訟は原告勝訴という判決を下した。しかし、2006年2月ハンセン病補償法改正によりソロクト、樂生院双方の入所者も日本国内と同様の補償を得られることになった。

司会 そうですね。一時期毎日、新聞に載ってましたから。IT 載ってたやろ。厚労省の前で旗掲げて、わっしょいわっしょい言うて。

司会 韓国の園は1カ所でしたか。ソロクト療養所ですね。

IT 韓国も台湾も1カ所やな。

TN 軍下統治下において、ハンセンのそういう施設を造つてな隔離しておんねん。

司会 人数はどうですか。

IT そないにやっぱりない。そりや日本の方が多いわ。

MR 現在は800人ぐらいやな。それから日本と違つて向こうは定着村いがあるわ。それが韓国には80カ所あつて、やっぱり人里離れて定着しておられるという感じでしたわ。私も定着村に行つたことがあります。

司会 療養所じゃないけども、そういう村はあるということですか。

MR その時韓国には金はなかつたから、療養所を何カ所も作れなかつたということ聞いていますわ。

予防法廃止の時の気持ち

司会 予防法が廃止になりましたよね。気持ちの面からも大分変わったと思うんですけども、どういう風に意識したか、また社会の対応など変わったなと思うことがあります。

IT まず予防法が廃止になった時は、そのハンセン病の人はまだ意味もわかつてない。ある個人では、MMちゃんらはぼつと思つたかもわからん。他の、全国の退所者はな。予

防法が廃止なつたいうたら、ああそうかい感じだな。ええかつこいうんやないけど、あの時1996年の夏に俺は、人権侵害で訴えとんねん、神戸弁護士会に。それから姫路や神戸の弁護士に裁判してくれいうて、もう10カ所ぐらい泣きついとんねん。わし、テレビ見とつて、むかあつときた。わしら強制隔離して、俺があの時泣いたんは何やったんや思て。それで勉強してな、俺の文章作つて神戸弁護士会に入れたわけや。あんまり事件が大きいさかい、話しが東京の日弁連に行つたわけ。それから1996年から3年経つた時に熊本で一番最初に裁判する言うて13人が出てきたわけや。1998か9年、第一回熊本裁判も見に行つてきたけど、それでもおれの訴えた1996年とその裁判も3年遅れとるわけ。

■国賠訴訟で原告となつた時の気持ちとご苦労された事
裁判を起こした時の気持ち

司会 ああ、ITさんが一番前からそういう形で。

IT うん、そうやねん。1996年に菅直人がな、墓場で頭下げてたんや。なんで頭下げたんや、俺はそれを勉強した。予防法廃止や言われてすぐにわかつたか、なんや意味わからんやろ。嫁はんは聞いてもわからんいうさかい、ちよつと俺勉強しに行つて来るわ言うてな、弁護士に聞いたり療養所に行つて聞いたり、いろんなこと聞いたわけ。そしたらあはれは悪かつたいうて頭下げとつたいうて。それで強制隔離された時からずうつと俺の人権返してくれいうて文章作つて。

まあきれいな言葉やわな。それから3年経って熊本の裁判や。でもあの時、俺に弁護士がついとつたら、1996年にも裁判あがつとる。でもそんな国とけんかするの嫌やいうて、そりやあまりにも急や。その時分から九州に徳田いう弁護士がおつて、九弁連いうのがあんねん。九州の全国弁護連、水俣やらエイズやいうて、ああいう活動をしとる弁護団があるわけ。あれがハンセンにひつかかった。その弁護士の偉いのが、こういう場所に100人300人集めてな、その13人とか、寮のこと調べてやな、講演させて。これは裁判いけると思ふか、あかんのんかいうことを九弁連やみんな調べてな。それでいけるとなつたら裁判、ほんつと行つたんや、13人の原告で。それから九州、ずうつと何回も裁判にMR連れて行つとる、自腹で熊本まで。でもわしが人権に訴えたおかげいのがあるやんか。その人権侵害訴えたことに対しては小泉か、それから衆議院・参議院の議員さんが新聞に載せた。まあ勧告したということや。裁判ではそういうことできん、裁判は金とり裁判やから、そういう国に対して総理大臣に、衆議院参議院そんな偉いさんに、勧告はできへん。でも俺が一人訴えた言うことだけでな、国が謝罪の言葉出しとるわけや。

TN ようよう考えてみい、ITちゃんすこいよ。

IT うん、ほんま一生懸命頑張ってきたよ。だから今全体連の代表いうてやつとてな、その日弁連に訴えとるその流れがわかつとやろ、わし。それやからみんな応援してくれる、弁護士も。向こうも俺を利用、俺も向こうを願ひし

てな退所給与金とつたりな、ああいうことができとる。そんな感じやで、その時はな。

裁判への入所者の気持ち

IT 予防法廃止で日弁連なり、みんながもつと騒ぐ、騒いで当たり前。ところがなんか飲み込んでなかつたわ。国賠訴訟ですらそうやる。長島に現在400人おる、そのうち50人だけや、原告に入つとんの。あとの350人はそのまま。司会 全員の総意でというんじやなくて、一部は訴えない、一部は訴えるいう。

IT 原告に入つてない、この人らどない言う思う。昭和20年前後に、食うもんもないのに寝るとこもないのにな、長島愛生園に光田園長に入れてもろうて、私は隔離されたいと思いが無い。なんでその人に対して裁判するんや。

TN 命が助かつたんやいうて、神様みたいに思つてる。

IT そういうこと言う人となんで今のわしらが話し合う。

TN 療養所が分裂しよる、反対派と賛成派と。

IT そりやもう10人おつたら8人までが反対派やな。

TN まあすこつたよ、もう罰が当たる言うて。国にご飯食べさせて貰うてな、何が裁判や言うてな。

IT そうはいうても、向こうはじいちゃんばあちゃんやし、苦勞もしてきたしな。わしらは、そういう人を大事にしたいいうのはな。まあどこぞの療養所でも原告は少ない。それでこの年代の人間は、いうことさかそう思たらまず無理や。この人らもう園にどおくと、この人生生きていってると人

から。それを外側から言うて行つても、おまえらもう向こうへ行けえやいう感じやからな。わしらはわしらの生活がある。そこへ入りたいいうことはないけど、それやつたら大人の目で見てくれいうてわしはいつも言うてる。わしらが療養所行つてもな、ああして一生懸命願張つとるがな、いつでも帰つてきて治療して帰れよ、このくらいの気持ちがあつたらな。

園の存続

ⅠT 在園者が、もうちよつとうち解けてくれたらええのになあ思う時あんねんな。今一番悔しいのは、そこやねん。わしがな国民健康保健使つてな、その療養所にしよういう、長島愛生園な。そしたら、よそもんとは一緒に療養生活はいらん言うてはぶいてまう。おまえらはおまえらで生活せい、長島に入つて来るないうて。今はまだ800人おるさかいええけど、人間が減つてこれがもう50人ぐらいになつてみい、誰が面倒みてくれんねん。わしらが国民健康保健で療養所に入つて治療したり、外の、虫明の人とか、園の官舎の人とか、みんながその長島愛生園に治療に来るようになったら、園が存続する。今はわしらがしよう思うところはそこや。

MR 患者もそうやけど、職員もな。

ⅠT 職員組合いうのがある。そんなんと手を組まな、それができんさかい。

MR そう、自分たちの生活も掛かつてる言うことを職員も知らんいうか。

ⅠT いやいや、職員はだいたいわかつとんねんけどね。

TN 患者さんがわからん。

ⅠT 粹ん中入つてしもうとんのやろ。もう煩わしさがいらんいうこと。だからそこんとこ退所者のわしらと話し合いがでせん。もつていきようがない、助けようがない。奄美大島はもう64人やから、自治会もあれへんようになつとつたしな。自然消滅しよう。それをほつとくわけにはいかんいうて、わしこの27・28・29日と行くわけや。その在園者とも、話しがなかなか、このコミュニティションいうんか話し合いが、わしらでせん、うゝん。

TN 不思議と一緒やな。療養所の感覚が皆一緒やな、考え方が。皆自分らだけのことしか考えてない。

MR もつと前向きに、前向きに考えて欲しい。

司会 お話聞いてて、退所されても園のことを考えられておられるような。

ⅠT そう、それは全国退所者原告団の代表が、わしらが園のこと、存続、在園保証、そういうことを今、決めていきようる。なんでせないかんのかなと思う。

MR 退所者もゆくゆくは、老後いうたらどないしよいう人がおるいう想定の基で、運動しとるから。だからうちら帰りたいた人は帰つてもいんじやないかというようなことでやつてるからね。

TN 帰りたいいう人おるから、老後はね。そういうもの中に入つてから、そこそこ考えんとね。

MR 園の事も、園の人の事も考えられるしな。それで退

所者の老後のことも考えたなら、俺はいい考え方やと思うてるからね、うん。

司会 社会に出て一人で老後暮らすよりも、園の方が安心できますし。

T N 一人で死んでいきとうない。

T T これが幸か不幸か知らんけどな、わしらハンセンとして、生まれてこないなつたからな。けど今みんな言うてるのは長島に帰りたいという、また嫌やいう、今はまだ元気に歩いて煙草吸うとうから。これが、ほけてくるやろ。もうそこまできとるわけや。まあ俺の話しような、俺もほけてきたら、長島に帰るで言うてる。俺がまあ市民病院でも県立病院でも入院するやん。そしたら病院代がやな、今なんぼ、月20万超える。病院で治療して、布団代や光熱費やいうて今ようけ出てきたやん。今元氣やから考えへんけど、嫁さんが世話して、わしらの奥さん、ハンセン病ちゃうねん、普通の健常者や。でもわしにハンセン病やけど惚れてくれて、俺の子を産んでくれて、だから俺はそこでもうおばはんとは別れる。おまえはおまえの人生を、俺は長島に帰る、いう感じで。みんなの権利やから、全国の退所者の権利やからな。だから療養所いいうのは、わしらのもう死に場所やな。大事に育てていきたいいう、そういう思いがある。国も裁判に勝ったやつに定めとうから、それはやっぱ利用せなあかんのや。そういう聞いを俺らは今しようる。でもな、なんぼ言うてもその在園者がもひとつ、わしらと話しにならん。自治会ですら、全療

協自体がまだ、そういう人がおらん。まあ神さんいう事務局長つておるわけ。あの人とちよこちよこと、ここ5年ぐらいで、はじめてもこのいうな。全療協いうたら全国の療養所の、自治会の会長さんや皆。それが今出てこい言うても、高齢の為2・3人しか出てこようへん。それからもう13ある療養所のうち2カ所はな、自分の療養所は自分で守ろうとしたわけや。えらいことなるで、それこそ割れたら厚労省の思うつぽや、団結がなかつたら。ひつついてこそ全療協いうて、ひつついてこそまた力があるけどな、自治会が割れてしもうて。これをな、一つにまとめよう思うてる。

■現在困っていること

ハンセン病の後遺症への理解

M M 西宮の市民病院に二週間入院したんやけどな。長島愛生園に5年もおつたからの、それ以外で入院したのはあれだけ。それ以外に入院はないです。

司会 それは自己管理をしつかりされているということですか。

T N 基本的に風邪も引かない。患者さんはな。私ら病院に行きにくいから、市販の薬買うから。健康保険を使つて行くのも少ないと思うで。最近歯医者行つたりするけどな。普通の外科やったら治らへんし、インフルエンザなんかは、自分で特殊な薬買つて。でも最近薬剤法変わつて、手に入れにくくなつてん。コンビニで買える薬も売れんようになって

きたからな。薬局でも売ってくれない、抗生物質の入っている薬は。前は売ってくれようたけど。こないだは岡山まで車で、4000円ほどの薬を、ガソリン代一万円ほど使って買いに行ったわな。

司会 やっぱり、ハンセン病の後遺症を知っておかないと治らない病気もあるだろうし。

TN だから外科のドクターがいう薬で治らへんねん。私ら自分のことはよく知ってる。同じハンセン病やけど、薬は皆違うからな。いろんなタイプがあるからね。L型とか。同じ薬使こうたからいうて治るとは限らへん。自分でみな、分かっているから。だから治るのも早い、自分で理解しているから。

司会 県も専門医師が少ないんで、どうにかせなあかんや。というのは考えてるんです。もう熊野先生お一人だけなんで、ハンセンの：こちらも専門医師の育成を考えてるんですよ。

MR もう、おれへんもんな、ハンセンに対するああいう医者。この桃原さんと一緒でさ、どっちかいうたら全然縁がないいうか、このハンセンに関してはもううそはないっていうそんな感じで、だからあまり把握しとらん。

TN 外科的な処置を待っている人もおると思う。

MR その件は、俺は自分でやとったからな。

TN 俺も自分でしとると思う。でもこれから薬が入りにくくなってきたから、世の中がね。そりゃ今まで通りにはいけへんから、自分でわかっとうから。(去年の)愛生園の夏祭り行つて大やけどした。入院せいか言われたけど、入院す

ると立場上困るからな、厚労省からな期限切られとるから。入院したら、再入所、再入院いう形にとられるとか、いろんな問題がある。それして、そこで一つ例を作ると、右にならえになるから、私が作つてしもうたらな。それやから絶対作らんようにしようる、そんな悪い例を。

司会 そんなね、医療機関にかかっていただいで、もしなんでしたらこちらに言うていただいたら。

TN そんなんしても治らへん、普通の処置とちがう、自分で分かるから、そんな簡単な処置ではないから治らへん。ハンセンいうたら、治らへん。特殊な薬で、じわじわって瞬間的にやっぱり違うて、知覚麻痺で感じがないから。せやから昔やったら、火鉢の炭火に手突つ込んで、手がもうずるずるになつてね。わからんでしょ、そんなん。皮膚がなくなつていく。火鉢に突つ込んで気が付いたら指がない。

MR ようは麻酔かけたようになる。

TN 細胞が痛んでしまうわけや。もう細胞が再復帰して盛りあがつてけえへん、そこまで焼けてんねん。だからやけどでもじわじわと焼けてるから。瞬間的に熱かつたら退けるやん、K(司会)さんかて熱かつたら退けるやろ。私ら退けへんやん。焼けとつても、目で見てああ焼けてるといふ感覚になるから、もう遅いわけよ。

MR ほんと麻痺つていうもんがどんなもんかいのは分からん。理解してもらわんことには、わからんわけや。理解せいというのは、無理かもしれんけど、痛いんがなんかい

ことです。普通の人には考えられない。この気持ちは絶対。多かれ、少なかれ必ず麻痺をもつてゐるわ。

TN 強弱はあるけどな。うん多少はあるよ感覚がね。こ
うやつて触つたらね、ようわかるとこと、わからんところ、
はらはらや。自分でもわからへん、どこからどこが感じがあ
つて、どこは感じないか。それを全部把握しとつたら氣をつ
けるよ。わからんから、やけどしたりする。

MR それで、完全に麻痺してると半分麻痺してるとい
うの、この差はちよつとじゃない。こころ歩いてつて、小さい
石ころでも踏んだらびいっつとくるんですよ、痛いのが。そ
れを半麻痺いうのよ。それで、完全に麻痺していたら何され
とつてもわからんわけ。ところが半麻痺いうのはちよつとし
てもたまらんほどくる。飛び上がるほど痛くなる。

TN 冷たいのがわかつて熱いのが分からんいう、中間が
ない。

IT たまらんつて、どない痛いん?

TN 小さい石、こそばいいのが、たまらないほど痛い。

IT それは神経があるからちやうんか。

MR そうそう、ものすごく敏感になる。

IT この人らだつて小さい石踏んだら痛いいうぞ。

MR いや、この痛さと違う。絶対違うと思う。

TN 違うねん。説明できひんわね、本当知覚麻痺はな。

MR そうそう、今左足がそうやねん。俺は、だから早う
歩かんわけや。

TN だからね、本人でしかわからんわな。見せてもたぶ
んそんなんわからん。

MR 本人しかわからん。それを理解せい言うても無理や。

IT ホテルの風呂でやけどしたつて聞いたけど、ホテル
のフロアの間には風呂の熱い冷たいは分からん。あれはか
なわんな。かわいそうやつたなあ。

MR そりゃあフロントは風呂の温度を見る為に、触らん
でしょ。

TN それで低温やけどはするしな。そう冷たい、温度低
くてもやけどする。うん、だから難しい。

■今後行政や、社会に望まれる事

医療のこと

司会 県とか国とかの行政に望まれること、また社会に望
まれることがあればお願いします。

IT 指定病院つくれいうて、そんなもん無理な話や。県
がなんでそんなことするのん。医者なんかおれへん、ハンセ
ン病の医者なんか。

TN ハンセンを研究している人間も日本少ないな。

MM 病院かて大阪いうたら済生会やる。こないだ行つた
んやけどな。

MR ああいうお医者いうのは、利用したらいいんちやう
んかな。

TN 園に近い人はいい、わしら遠いもん。我々にそこへ

行けいっても交通費かかるしな。けど行きたい人は行ったらいい。

MR 地元医者(病院)があるんだから。一概にいわれへんのやけど、地元やし。はじめて掛かる医者やからな、自分の病気いのは言わなあかんし。

IT だったら俺も医者にいうたがな、おれはハンセン病やいうて。ほんでも自分の健康保険証出してやで、金出してやで、わしすまんけど、ハンセン病やちよつと診てくれるかいうて、そんなばからしいことなんでいうんや。

MR うん、その意見わかる。意見はわかるんやけど、言わんでもいい時もあるわけや。

IT それもハンセン病診てもらうんちゃうで。胃が痛い、けつが痛いいうのに、わしをハンセン病や言うねん。そんなんいう必要ない言うんやけど、この間病院の人が来て、ハンセン病な、歯医者も内科の方も皆受け入れるいうたわけや。

TN ハンセン病やったら特別にやってくれる。その方が楽やもんな。

MR そうか、俺が思うてる感覚と違うんや。

IT ちゃうちゃう、全然。ただやったらわしだつてそんなハンセン病だけとすんませんなあ、痛いんやけどな言うよ。

TN 言うた方がドクターに対して受け入れやすい、それだけ思うてん。

MM わしハンセンやいうて、言おうか言うまいか悩んで言うてん。

IT せやけど、なんで受付でハンセン言わなあかんねん。わし盲腸ができてやで、市民病院入院するとするやんか、ハンセン病や言うて。そしたら子どもが病院に来るやろが。そんなもん看護婦さんに知り合いでもおつてみい、おとつあんなハンセン病やて、なんでそんなこと言わならんの。おまえらそままでしてハンセン病を売り物にしたいかて、わしそこで言いたい。ハンセンが悪いなら園に帰れ、それは市民病院でも一緒やからな。ハンセン病の医者なんかおるもんか、どこにおんねん。京都の京大病院、あつたらだつたらおるけどな、明石もおるけどな。それでも、腹が痛いねん、けつが痛いねんいうのに、自分の健康保険使うてやな、なんでハンセンのこと言わなあかんねん。それでも、ええいう人もおるわけよ、後はそんな人やけどな。

MR あの俺の感覚やけど、ハンセンに関して内臓はハンセン関係ないでしょ。だから堂々で行ける。健康保険使うて行つたらええんじやからな。俺も知覚麻痺とかあるから、そういう時にや園に帰るけど、内臓関係は関係ないって。

MM 病院行つて医者やがな、手どないしたつて聞いたらどうする。

MR 俺は、やけどしたいう。ハンセンじやいうてきたら言うてる。なついつもそうやで。

IT 手診てもらいにきたんちゃう言わんかい。

MR 俺も今だつたら言えると思う。昭和30年に行つた時はそうはいかなんだ、おそろく言わへんわ。

1 T 大阪でこうしてやつとるけどな。まあ大阪の間は、2、3の人間はな、喜んどのやつおるわ。そういう病院があったらええいうて、後の7人ぐらいが反対やな、10人おつたらな。なんでそういうつきあいしたい言うんかな。

大阪の、どっかの病院の先生、徳州会か理事長なんやそんなと看護師長とが来てな、うちが受け入れます言うて来た。それに対しては、うちはうれしいけどな。

M R 大阪の済生会や

1 T 大阪やつたら済生会。保険証持つとたら、どこでも今受け入れしてくれるし、それでハンセン病やからあかん言うたら、もうそりや九州の黒川温泉みたいにたたかされて。

M M どの医者かな、へたか上手か、そりやある。それがあるから、決めて行かなあかん。

M R どこでもいいんや、自分の行けるとこ行きやあえんですよな。

1 T わしや兵庫県やからな、だから、あんまりこないして病院いらんで。ちがうM Mちゃん、いる？

M M 近い人はいいけどな。

1 T 国民健康保険あつたら、どこでも行けるで。

司会 県としても、普通の風邪とかそういうのは、一般の病院で一般の方と同じように受けていただいて、専門的な知識がある場合に掛かれる病院っていうのを確保せなあかんということではしてらんです。寮みたいな大げさなものじゃなくて。今やつたら成人病センターに先生おられますけど、

退職された後に引き続きいて。今検討はしてるんですけどな。
T N まあドクターがいてくれたらな。医者もお金もちゅうたら、だれもなりたくない。なる人もおらんわ。

1 T そういう事があるからな、今話しもせえへんならん。厚労省がいうとんのは、その8月の1日に入院するやん、そして8月の30日までは入院が可能やねん。入院が可能やいうことは、わしが長島行くやろ、行って帰ってくる費用だけが6000円か、向こうで飯行つて医療行つたら。それをだいたいの指定病院にしよう思うてわしは。今言うたように腹が痛い、けつが痛いというのは、そこらの町医者の病院で済むわけや。ところが、その本人がこれから長引くない兆候のある病気が出た時に、長島愛生園だけとちゃう、愛生園から岡山の病院まで連れて行きよんねん。悪いやつはもう園でせえへん。そこで治つたら、手術して終わつたらまた園に連れて帰つてきよる。皆そうやで、園にそれだけ医者がおらん。

T N だからK(司会)さんがなんぼ探そう思てもおらん。療養所自体におらんから。園には薬があるから行くだけであつて、いずれそれもダメになるね。こないだも、皮膚を増殖する軟膏の薬、買ってきた。またやけどしたら困るから。

M R こういうハンセンのことを知りたいいう先生がおつたら、おれはその先生の方がいい。その方が手取り早いから。

1 T いやもう町のハンセンの先生なんていらんねん。
住宅のこと

1 T わしら兵庫県には、これからも住宅関係に対してな、

即受け入れる言う感じだな。やっぱり住宅の問題が一番、入所者が今度いつ療養所から出てくるかわからんし。まま、今の状態でええけどな、これ以上要求はないけどな。そのものみだけ、しっかりしてくれたら、うれしい思うな。おれがある時、Nさん（前の県の担当者）と話しとった時はな、9万円ぐらいのアパートにおったんよ。そういう話しをようさせて貰うたわけや。それで、ちゃんと市なり県なり府なりのその住宅入れたらんかい言うて。一生懸命やつてくれたよ、うん。あれやこれや言うて指定病院つくれ、あないしてくれ、こないしてくれいうたらもう兵庫県の人間はもう、…でもまだ退所者が、大分おるんよ。

司会 一説によると40人。

IT おるおる、おるけどみんな出てこん。

司会 出て来られないですね。退所者の方は、11名おられるのかな、一名退所されたんで。

MR 実際には、ハンセン病やけど、お金とかそういうの貰わんでも生活している人もおるんじゃないかな。

IT もう「関西退所者の会」の会員が、60人ぐらいおるんよ。60人おるけど、だんだん減つてもうて、もう15人ぐらいしかおらへん。みんな、孫も大きくなり、子どもも大きくなりして、出て来んようなる。裁判勝ったからいうてな、そういうのがオープンになるというのはこれ間違いや、全然ちゃうねん。裁判は裁判やて、わしらのあつこでしゃべったことは、子どもにはれんように、孫にはれんように。そんなもん

裁判勝ったからいうて、うちの子どもにやで、わしのおとつあん、若い時分にら病してなあって、そないなことよういわん。

MR ハンセンで、ブイブイ言わせてたんやでつて言える世の中になればいいな。

司会 そういう世の中になれば一番いいんですけど。役立てる記録集になればいいと思つています。今日は長いこと、どうもありがとうございました。



平成18年度 交流訪問会（長島愛生園）での神戸市立兵庫商業高校龍師団による獅子舞

親子三代にわたる園との関わり

元看護師 Kさん(女)

昭和42年4月から平成10年3月まで31年も長島愛生園に勤めました。

当時は、働くところが無い時代でした。中学校卒業なんか田舎では特に働く所はありませんでした。先生から「働きなから、勉強ができる愛生園の看護学校があるが、行かないか？」との話しを聞いた時は嬉しく思い、行こうと決め家に帰り母に相談しました。ところが母は猛反対でした。「あそこだけは行つたらいいん」と言うので、どうしてかと聞くと「どうしてもいいん」と。私が、あまりしつこく尋ねるものだから、母は、「愛生」というところはな、ライというて怖い病気の人がおるんじや。聞くところによつたらな、傷をしたところには、虫が湧いとる。眉毛も抜けとるんじやそうな。そげんとこへは行けるもんか。行つたらいいんぞ。早よう先生に、断りんせえよ」と言うので仕方なく断りました。同級生が一人だけ行きましたが、その方は准看護婦になり、年数が来て高看護婦に格上げされました。そしてレントゲン技師と結婚されて、静岡県のほうで幸せに暮らしておられます。

それに引き換え私は、生活にも困って、愛生園に行く事になったのです。就職を試みて分かったのですが、聞くところとは大違いということわざがあるように、大違いでした。

こんな事なら何で早く行かなかったのかと悔やみました。自分の目で確かめるべきでした。

働きかけても色々ありました。近所の人からは、「ええ給料を貰うんじやからええが」「ええよ、男と同じだけれもん」「当たり前じゃ、汚ねえことをしようるんじやもん」と。また、「この人に子供を近づけるとうつるから、近づけない様になど、悪口や陰口を言われました。弟の婚約の時も「お姉さんが、愛生へ行きようるから、うつるぞ。あそこはいけんぞ」と断ってきたり、他にも人に言えないようなことも沢山ありました。

私には2人の子どもがおり、大きいほうの子が幼稚園、小さい方が3歳ぐらいの頃、勤務も早出は6時半から3時まで。日勤は8時半から夕方5時まで。遅出は12時半から夜9時半まで。帰りの船は9時で終り、次の日まで出ないので、仕事が終わっても帰ることはできません。事務所の交換を通して、電話で「ご飯を食べたか。戸締りをしたか」と聞いて、私も仮眠室で仮眠をとり、翌日はまた早出をして帰ります。小さい子ども2人を残しての仮眠は本当につらかったです。

服装も大変でした。自分のロッカーに服を脱ぎ、下着1枚になり次の部屋に行き、上着とズボンをはいて次の部屋に行

き、ガウンと帽子を着て次の部屋で靴を履いて、マスクに消毒ケースの中からマスクを2枚とって挟み、帽子の上からマスクの紐を結び完了です。ガウンが長く邪魔なので裾を腰で結んでは、婦長さんによく叱られたものです。仕事が終わって帰る時は、朝の反対に次々と脱ぎながら、スノコの上に用意された木桶の中のクレゾール液に、足を突っ込んで消毒をして、ロッカーに行き、全責お風呂に入ってから帰るといふ毎日でした。休みの日に買い物に行っても、「あんた病院にお勤めですか」と言われました。クレゾールの匂いは取れません。今では、半袖のワンピースですし、帽子はかぶらなくてもよくなって、帰りにお風呂に入る人たちは一人もいません。今までしてきた事は何だっただろうと思います。今更ながら、偏見と言う事の恐ろしさを感じずにはいられません。

患者さんの生活も大変でした。京間の4畳半の1部屋に2人で住んでいました。暖房は、木で作った50センチ角の縁の付いた火鉢が2人で1つ、小さなコタツが2人で1つ。目が見える人は、それでも良いけれど、全盲の人が2人で1つの部屋で暮らすのですから大変な苦勞です。相手が何処に何を置いているのかわからないのですから。目の見える私たちでは考える事はできませんが、うまくぶつからないようにしておられました。廊下を歩く時は両方の手を大きく広げて歩くと真ん中を、片手広げると左右歩く方向が決まります。あ・

うんの呼吸で誰一人ぶつかりません。ぶつかるのは、目の見える職員です。暖房の炭は、1日何回か継いで消さないようにして、運出が帰る時に丁寧な灰を掛けて明日までもつようにしておきます。翌日、早出が炭小屋から炭をかごに入れてきて、灰を堀り炭を継ぎます。火種が無くなっていたら最悪です。朝から大目玉。鼻の穴も眉毛も真っ黒にして仕事をしても、何のその怒りは収まらず。今では広い各部屋に台所と便所、冷暖房が付いています。その部屋も空き部屋ばかりになったそうです。

あの頃、幼稚園だった娘が看護婦になり、この道を進んでいます。孫も大学生になり福祉を専攻しています。私、子孫と三代にわたり医療・福祉に携わらせていただける福運の人生と陰ながら喜んでいきます。先日は孫がレポートを書くので、愛生園の患者さんにお話を聞きたいとのことで、お願いをいたしましたところ、心良く承知してくださいました。

あるおばちゃんは、「私の本当のお父さんが、いつも白い大きな布を頭からかぶっていた。その布に下から膿が染み出していた。自分のお父さんであつても目を背きたくなる。ああ、いやだなと思っていた。他人様が見ていやだと思つのは当たり前ですよ。私はそう思うよ」と静かに話してくれました。「よくテレビの取材に来るけど、『おばちゃん、テレビには映らないでね』と姪が言った。『そうよね、映つたら困るよねえ。気をつけるからね』そう言いました」と。何か寂しそうですし

た。「お金を貰ったが、差別されたのは、自分だけじゃない。社会にいる兄弟も、同じ様に差別されたんだ。苦労したのは皆同じだ。そう思い、お金を送ってあげたが、それが返ってくる。2回3回と戻ってくるので、おかしいと思い尋ねてみたら、『何もいらないので、今後一切、連絡をして欲しくない』と言われた。悲しいよなあ。肉親でなんだろうなあと思った」。また、「お父さんの所にお金を貰いに来て廊下から入り、自分の通るところに新聞を広げ、その新聞の上を歩いてお金を貰ったら新聞も片づけずに帰っていく、何処が親子だろうか」。孫は、「こんな事を自分なりにまとめレポートにして提出したら、先生が『おい、僕も連れて行ってくれよ』と、お話を聞かせて欲しい、話をさせて欲しいと言われたよ」と言っていました。でき上がったレポートを持って、話を聞かせてくだされた患者さんに、お礼方々見ていただきに行きましたら、とても喜んでくださいました。

今、「ゆいの会」の中で、孫と一緒にハンセンボランティアをしています。孫と一緒にできるなんて考えてもない事でした。長い間お世話になりました愛生園・光明園と、これからも関わっていかれたらと思っています。

昨春秋、光明園の兵庫県人会里帰りの付き添いをさせていただきました。勤めている時は「明日は里帰りじゃあ」と耳でしか感じていませんでしたが、とてもとても、そんなものはありません。園のお世話、それから県の方のお世話。バ

スの運転手さん、ガイドさんも合わせて、帰られる方々が一つになつての里帰りでした。

先日、牛窓西小学校の生徒、女子16人がチマチヨゴリを着てアリランを踊り、男子はチャンゴの演奏をして、見て聞いていただき、そのあと入園者の方々と交流ができる橋渡しをさせていただきました。愛生園の慰問が終わり、両園共に大歓迎を受けました。子ども達も感激していました。付いて来た父兄からも、「親の七光りということがありますが、子供の七光りで、親がこんないい思いをさせていただきました」とお礼を言われました。

子ども達と入園者の皆さんが、いい関係が続く、この気持ちを大切にして、これからも交流していただけたら、両園に橋渡しの役目をした私としましても、最も喜びとするところです。これからも、色々とお世話していききたいと思っています。また、愛生園で習った事（介護、勉強したことをボランティアで、皆さんのために生かしていきたいと希望に胸を膨らませています。

※Kさんの掲載文は、聞き取りではなく、ご本人からの寄稿によるものです。

ききりくわんしん



昭和初期の運動会の様子（長島愛生園）

患者さんとの園での再会

元看護助手 Yさん(女)

昭和28年から平成3年6月まで38年間勤めました。

ちょうど28年のお盆前から、盆過ぎるまでの3週間位じゃないかなと思いますが、ハンセン病の解雇の事で物凄くストライキ「本館前に座り込み」があつたそうです。それからすぐに園長先生自らが、裳掛中学校に募集に来られて色々な説明をされました。それでストライキも収まり、私は9月に就職しました。本当は、洋裁の学校に行きたかつたのですが、お金が無く、少し働いてお金を儲けてから、洋裁学校に行こうと思い、就職したのが38年もの長きに至りました。9月の一ヶ月間は、園の中にある小学校の手伝いをしました。10月からは現場に下りて、仕事の始まりです。

園の中には、保育園、小学校、邑久高校の分校がありました。お母さんが入園された時、一緒に連れて来られた病気ではない子どもさんが、お母さんと引き離されて保育園に入られ、そこで大きく育てられます。小学校になると1年を通して学校行事があります。例えば運動会。そんな時には、裳掛小学校に来られて、地元の子どもと一緒にします。女の子はブルマーをはいて運動をしますが、その子どもたちはブルマーを持っていません。私より2歳年下の方が居られましたが、やはり持っていないので、運動場で私が脱いで、その子には

かせて走らせ、帰って来たらまたすぐその子が脱いで、その子のぬくもりのあるブルマーを、私がいって走るといふ繰り返して運動会をしていました。まるで姉妹かと思うほどでした。今ではその子も良いお母さんになっていきますが、そのお陰で、未だに「お姉ちゃん、お姉ちゃん」と慕い、園に来られる時は、お菓子袋を提げて我が家にも寄つてくれます。運動場で着替えていたことで、今なら私も一緒にいじめにあつていたことだろうと、ただ懐かしく思い出します。

園の中では、結婚されても子どもは産めなかつたようですが、何人かは産んだ方がいて、看護婦さんや先生が、赤ん坊を抱っこをしたのを見たことがあります。私も生まれたばかりの赤ん坊を、先生から渡されて抱っこをしたことがあります。試験室の側まで車が来て止まり、中から事務係の人が降りてきて、その赤ん坊を岡山の施設に連れて行く、今でもその様子は、はっきり覚えています。様子の分からない私は、ただじつと見ているだけでした。

昭和29、30、31年頃には、まだ若い人がいましたから、部屋天井にドスを隠しておいて、振り回したり、大声でわめいたり大変でした。園長先生を呼んで土下座しろなんて言っていましたよ。配膳の時でも、気に入らない人だったら、顔

めがけて味噌汁をぶつ掛るもんだから、びしょんこになって、泣いて「もう、よういかん」と言うから「それなら変わりに、私が行くわ」と胸を張っていく。「どうして代わりに来たんなら」と怒鳴られる。「泣いてよう来んから、代わりに来たわ。文句があるか」「わしに盾突くのはおめえだけじゃ」と、こんなやり取りは日常茶飯事でした。

勤務している時の消毒は、クレゾールでしたので、身体に染み付いていました。岡山に買い物に行っても「病院にお勧めですか」とよく言われました。虫明を歩いていても「くせえ、くせえ。糞たれ組」。船で通っていたので、船が着く頃、そこに来て「糞たれ、大糞たれ組じゃあ。戻ったぞ」と、今の私の年ぐらいの人に罵られていました。母が早く亡くなり、父一人でしたから、父親に「おめえも愛生園に行くんか。行かんでもよかるうが」と言われ「お金が欲しいから行くんじやあ」と応えていました。働き始めた頃はまだまだ汚くて、虫の嫌いな私はそれ大変でした。「うわー」とか「こりゃあー」とか言うのと、先生が「お前の声は大き過ぎるぞ。傷に虫がいても、見て見ぬ振りをしろ」と良く言われたものです。そのうち、プロミンとか良い薬が使われる様になりました。

私たちは、とにかく一生懸命に働きました。朝7時半に虫明より船が出て、愛生に着くと一目散に病棟を目がけて突っ走る。それを見た患者さんが「ほら虫明の愚連隊じゃあ。愚連隊が来たぞ」となにやら嬉しそうに見ていました。それを

尻目に、ドットコ、ドットコ、と走って「絶対に看護科だけは、他の科に負けんぞ」と、若さゆえの行動でした。

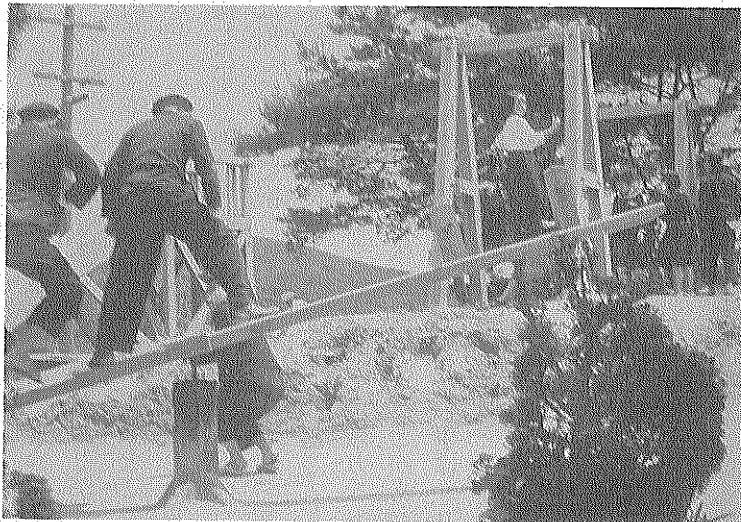
私の一番の愛生園での思い出は、昭和20年終戦の年、お父さんが漁に出て行った夜の事です。姉と2人で留守番をしていたら、患者さんが木製の洗濯たらいに乗って園を逃亡して来て、お父さんの船を着ける所の桟橋から上がってきました。その時、患者さんの顔も見ました。やっとここまでたどり着いたというのに、可愛そうに、しばらくしたら愛生園の方から探しに来て連れ戻されました。私も子どもだったので、その夜は怖くて怖くて眠れず、姉と一緒に祖母の家に行って泊まって帰りました。後になってから、患者さんに聞いたことですが、職員が逃がしてやると言って段取りをして逃亡させておいて、園や警察に通報するということがあったそうです。どうしたことだったのか、分からない事はかりです。その患者さんの名前を、当時愛生園の看護婦をしていた叔母に聞いていたので、就職してお会いた時、「わかりますか」と尋ねました。「忘れるもんか」こうだったねと、思い出話をしましたが、私のことを良く覚えていてくれました。その患者さんが手術することになって、私も意地悪でしたから、先生に「手術の時、中を見せて」とお願いしたら、「入ってもいいよ」と手術室に入れてくれました。患者さんは「治らん足をいつまでも治療しやがって、落せえ」「落としたくない」といろいろ言われていましたが、結局腿から切断する事になっ

たのです。麻酔をしても、やはり骨を削る時は痛がついていました。先生が「男じゃろうが。我慢しろ」と言い、私に「ここに居るんだから、落とす足を持って居れ」とその切断する足を持たされました。ドンと切り落とした時は、言いようのない重さでした。

先生には、手術着を着せたり脱がせたりさせてもらったので、身近になり可愛がついていただきました。昔だからこそ、和やかな日々でした。園の中には果物の木がいっぱいあって、先生が採ってきては、手術室の中で柿の皮をむき、「現場では食べる怒られます」と言っても「良いから食べなさい」と、食べさせてくれました。

今は息子も愛生園に就職をし、看護婦さんのお嫁さんを貰い、孫もできて、毎日愛生園の保育所に通っています。縁で不思議ですね。たまに、息子が「おかあさん、今日は饅頭先生が来るよ。連れて行ってあげようか。会いたいじゃろう」なんて話してくれます。ハンセンボランティアの「ゆいの会」で夏祭りや片づけなど、いろいろな要請があれば行ってお手伝いをしています。元気な間は関わっていききたいと思っています。

※Yさんの掲載文は、聞き取りではなく、ご本人からの寄稿によるものです。



昭和26～27年頃の少年舎学校横（長島愛生園）

皇天會館附 音信

その心は 義兵の闘争の 即ちその

その心は 義兵へはす 義兵の

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

皇天會館附 音信

回復者の活動紹介（一部抜粋）

俳句・川柳

釣り人の 賑やかな声 秋の海

邑久光明園 池田静江

手引かれて 散歩の道は

花薄はなうす

邑久光明園 池田静江

生かされて 無型へ点す 朝の経

邑久光明園 有馬 修

子のいない 孤島に四季の 唄がない

邑久光明園 有馬 修

詩

古里のハンセン病フォーラム

去る八月二十四日の午後一時半より

私の古里 加西市の市民会館で

ハンセン病フォーラムが開かれた

その朝 空は晴れ渡り

午後のフォーラムを祝福するかのやう

その成功を祈って 私は祝電を打つ

二日後 市の人権推進課より

フォーラムのテープと写真数葉が届いた

早速テープを聴く

司会の女性の美しい声流れる

先づ 柏原市長の挨拶 その中で

丸山公園に建つ私の歌碑の事に触れられ

恐縮する

次に 人権を守るポスター作品の

優秀な生徒たちに 順に

表彰状が授与され 拍手が続く

いよいよ講演である

講師は わが愛生園前園長の中井榮一先生と

前自治会長の石田雅男氏

中井先生は スライドを見せつつ

八病の歴史と現状を分り易く話され

石田氏は 入所後の囚人に似た生活の

幾つかを淡淡と述べる

出席者は千名以上で

最後まで席を立つ者は無く

大拍手の裡にフォーラムは終る

これを機会に 古里人らは

謂れ無き差別と偏見を

少しづつ捨てて

程なく

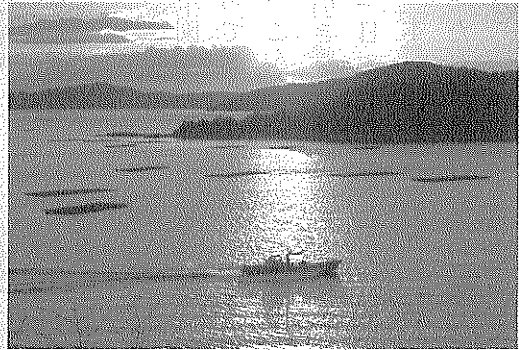
後遺症の重い元患者の私を

「お掃りなさい」と

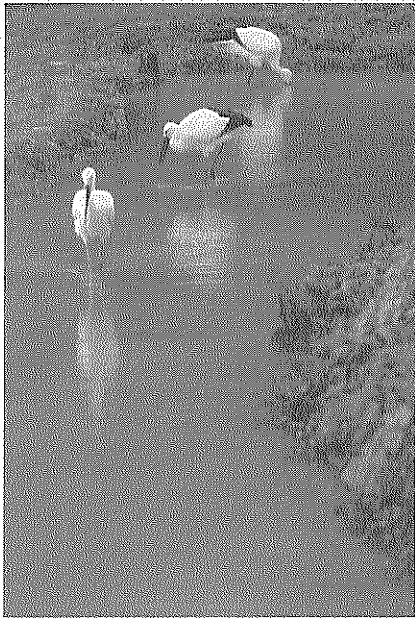
温かく迎へてくれる事だらう

長島愛生園 谷川秋夫

写真



邑久光明園入所者 K・M氏 撮影



菊池恵楓園 T・T氏 撮影

陶芸



邑久光明園入所者作

講演活動

「ハンセン病と人権」(平成16年10月兵庫県ハンセン病講演会) 菊池恵楓園 M・I氏

「ハンセン病と私」(平成14年3月兵庫県ハンセン病フォーラム) 長島愛生園 石田雅男氏

将棋

長島愛生園 下川 亘

昭和54年5月 アマ将棋名人戦 一般将棋

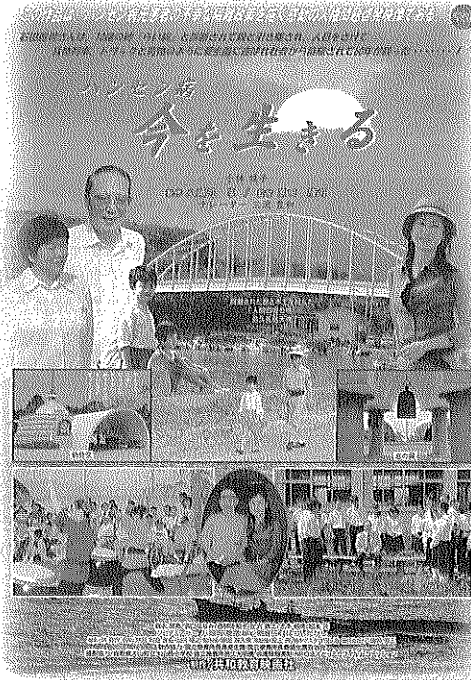
邑久地区大会 名人戦優勝

昭和49年6月 日本将棋連盟5段免状

出演映画

「ハンセン病 今を生きる」

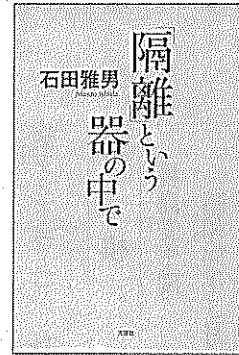
石田雅男出演



(内容) ハンセン病回復者の石田雅男さんは、10歳の時に国立療養所長島愛生園へ強制的に隔離されました。「病気が治ったら、すぐ帰って家族と暮らせるから」その言葉を信じてこの海を渡った。こんな狭い海が父ちゃん、母ちゃんや兄弟たちと、僕とを引き離す力を持っているなんて…。一日も早く帰りたくて、一日一本と決められていたお薬の注射を、僕はお願ひして、二本打ってもらった」

ハンセン病を患った石田夫妻の苦難の道を辿る感動のドキュメンタリー (49分)

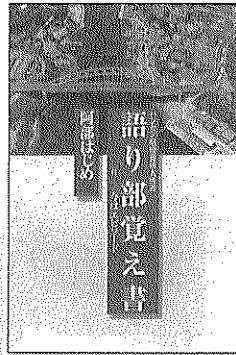
著書



著者 石田雅男

(内容) 「人間として生きたい！」ハンセン病への正しい理解を求めて元長島愛生園自治会長が五十余年の想いを切々と綴る。

出版社 文芸春秋



著者・発行者 阿部はじめ

(内容) 「愛生園は宝の島だ」といって私たちの話を聞きに来してくれる人たちがいます。「信じられないような話をたくさん聞いた。もっと聞きたい」と言われるのです。：私たちはその信じられないことを「当たり前前のこと」として生きて来たのです。(まえがきより抜粋)